

# 全船協

会報 155号 2024年5月 春季号



「弓削丸」 弓削商船高等専門学校練習船



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

## 山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号  
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520  
Email: info@sanyukisen.co.jp

## B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ  
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972  
Email: info@bands-k.com



## 北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号  
セントラルビル6階  
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

## 一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地  
(海事センタービル5階)  
電話 (03) 3265-6641  
FAX (03) 3265-8710  
<http://www.captain.or.jp>

## 一般社団法人 海洋会

会長 関根博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6  
東京海洋大学越中島キャンパス内  
産学・地域連携推進機構越中島オプンラボ棟1階  
電話 (03) 6458-8215  
FAX (03) 6458-8214



一般社団法人

## 日本船舶機関士協会

会長 四方哲郎

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地  
(海事センタービル5階)  
電話 (03) 3264-2518  
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp  
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

## 人と海に未来を

## 公益社団法人 日本海難防止協会

会長 内藤忠顕

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8  
元代々木サンサンビル3F  
電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp  
<https://www.nikkaibo.or.jp>

## 日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは  
電話 **03-3436-3223** まで

<https://www.jmd.co.jp/>

## 海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行  
購読料 1カ月542円(税込・送料別)

お申し込み  
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6  
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

- ・海技教育支援 ・奨学金
- ・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

## 公益財団法人 海技教育財団

会長 池田潤一郎

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4  
電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

## 株式会社ウシオ

100th  
ANNIVERSARY  
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号  
電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070  
<http://ushio-kk.co.jp>  
東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

目次

表紙・・・弓削商船高等専門学校 練習船「弓削丸」

巻頭言『弓削丸』竣工記念式典.....理事 柏木 実・・・2  
 ～社会人向け大学院(技術経営修士課程)のご紹介～.....国立大学法人  
 東京海洋大学 教授 吉岡 哲也・・・4

C号航海記(第4回).....内海水先区水先人会水先人 会員 栗阪 肇・・・10

**北から南から**

富山高等専門学校.....16

鳥羽商船高等専門学校.....20

広島商船高等専門学校.....26

大島商船高等専門学校.....29

弓削商船高等専門学校.....34

海技教育機構.....39

練習船若潮丸を活用し、1月27日(土)に七尾市へ支援物資を輸送しました  
 .....独立行政法人国立高等専門学校機構 富山高等専門学校・・・42

鳥羽丸竣工式写真.....45

17001R060417 ニュース海洋教育推進27回.....衆議院議員 赤池 誠章・・・48

51回戦没船員追悼式案内.....公益財団法人 日本殉職船員顕彰会・・・50

50回戦時徴用船遭難の記録画展.....公益財団法人 日本殉職船員顕彰会・・・51

“練習船日本丸”実習生激励訪船 in Singapore.....事務局・・・52

本部・支部だより.....事務局・・・55

賛助会員名簿.....事務局・・・56

会費納入者名簿.....事務局・・・57

時事寸評・表紙写真解説・編集後記.....事務局・・・58



事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。  
 転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が  
 可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail:[honbu@zensenkyo.com](mailto:honbu@zensenkyo.com)

ホームページ:<https://www.zensenkyo.com>



## ◀ 巻頭言 ▶

### 『弓削丸』竣工記念式典

理事 柏木 実



2024年3月23日、弓削商船高等専門学校に於いて、第4代弓削丸の竣工記念行事が、文部科学大臣盛山正仁様、参議院議員山本順三様、

同赤池誠章様、同梶原大介様、文部科学省高等教育局長池田貴城様、国立高専機構理事長谷口功様はじめ多数の皆様方にご参列をいただき、盛大かつ厳粛に執り行われました。

本校第2体育館にて記念式典を開催後、学校棧橋にて本船をバックに関係の方々によるテープカットが行われ、晴れて目出たく新弓削丸が誕生しました。

その後、記念内覧会にて本船見学をし、第3代目弓削丸とは100トン余りしか変わらないのに、想像以上の大きさに圧倒され、大変素晴らしい立派な練習船に感動しました。技術の粋を結集した様々な最新鋭の機器が搭載されており、商船教育により一層役立ってくれるとともに、災害救助船としての設備も備わっており、今後の活躍が大いに期待されます。棧橋に係留した威風堂々たる弓削丸の雄姿を目の当たりにし、様々な思いがこみ上げてきて胸が熱くなるのを覚えました。今日に至るまでの大変長い道のりに多大なるご尽力をいただきました方々に、改めて心より厚く御礼を申し上げます。

昨今の社会情勢は、人手不足が大変大きな社会問題となっております。

特に運送業界では、トラックの運転士不足で顧

客に対し十分なサービスが提供できなくなっており、国は大量の荷物を一度に運べ、また、二酸化炭素削減効果を鑑み、陸から海へとモーダルシフトを検討していると伺っております。船舶を運航する海技士になるためには、船酔いをしないこと、長期間家族と離れ離れになって、日夜公私ともに、海上での生活を余儀なくされること、社会とは完全に隔離され、20名余りの限られた人と毎日生活をしなければならないこと、昼夜なく常時機器の騒音に悩まされること、冬場の北太平洋では時化のなか、アメリカ大陸へ着くまでの2週間、2~30度ローリングするなか、食事、睡眠もままならず、陸上とは全く異なった環境のなか、様々な過酷な条件に耐えられる気力と体力とがあるかどうか問われ、陸上とは全く異なる特殊な環境での仕事です。遠洋航路の船長、機関長になるには一級の海技免状を取得しなければならず、そのためには、全国に5校ある商船高専に入学し、遠洋航海実習を含む5年半に亘る専門的な学びが必須条件となり、海技士の国家試験に合格し、晴れて商船士官としての仕事に従事できるようになります。

船乗りになるためにはハードルが高く、多大なる費用と時間を費やすことになり、国の方針に応えるためには、絶やすことなく継続的に地道に海技士を養成して行かなければなりません。

日本は、島国で大半の物資が海外からの輸入に頼らないと成り立って行かない国であり、船は短期間で建造することができても、船舶を運航する船員になるための教育は、長期間を要することになります。



盛山文部科学大臣と筆者



弓削丸内覧会にて

商船高専5校は、中学校を卒業したばかりの船乗りになるとの熱き志を持った純真無垢な学

生を、荷主様から預かった大切な荷物を事故なく無事安全に目的地へ届けるため、5年半の長期に亘り基礎から時間をかけて教育することができる、現場の海技士を養成するための唯一無二の船員養成専門機関であります。

諸先輩の方々が明治維新より120有余年に亘って大変ご苦労され培ってこられた船舶運航技術のノウハウを絶やすことなく継承し、日増しに混迷の度を深める世界情勢の中、エネルギー、食料等の安定的な供給に不可欠な日本の大動脈であるシーレーンを確保し、安全に荷物を運び、社会に貢献して行かなければならないものと考えております。



# 「手習いのすすめ」

## ～社会人向け大学院(技術経営修士課程)のご紹介～

国立大学法人 東京海洋大学 教授 吉岡 哲也

### 1 はじめに

「技術立国日本」、とよく言われる。天然資源に恵まれず、有能な人材を頼りに世界市場で生き抜こうとすれば、「技術」を立国の原点にするほかない。「技術」をベースに付加価値のあるモノづくりやサービスの提供によって国の経済の基盤を築く、と言う考え方である。

海運会社においても、その立社の原点が「運航技術(海技)」であることは必然のことといえる。それは、昨今を問わず普遍的であったと思われるが、近年の市場動向変化、技術の複雑化は煩雑となり、従来型ビジネスモデルの陳腐化が加速され、これまでにない領域での市場開拓や技術開発などによる事業活動の基盤構築が求められている。

斯様な趨勢にありながらも、ALL 日本人船員配乗が維持された昭和の時代より、多種多様な乗船勤務、様々な形態での陸上勤務など、それぞれの業務経験を積み重ねて行く過程において、漫然と抱いていたジレンマがあった。それは、『海運事業における「技術(海技)」の価値と重要性、社業への反映、そして、ミクロ及びマクロ視点でのロジカルな発想と、問題解決能力向上に必要なスキルとは何であろうか?』ということ。つまり、「技術(海技)を経営に活かす手法」はどのように学び、どのようにして体得するかということである。

丁度そのころ、某海事産業紙に掲載された、日本郵船株式会社宮原会長(当時)から海技者へのエールとも言うべき、『これからの海



吉岡 哲也 教授

技者は、船長・機関長を目指すだけでなく、その技術・経験を活かした経営者、ゆくゆくは社長になるくらいの気概を持って!』との力強いメッセージに、背中を押される思いがしたことも挑戦へのモチベーションとなっている。

こうした背景に基づき、一人の海技者・ビジネスパーソンとして得られる選択肢のなかから、これらと真摯に対峙し、自己研鑽の機会としても最適と思われる、社会人向け大学院の受験、なかでも「技術経営修士課程(専門職)」の履修を決めた。おかげさまで、家族や周囲(組織)の賛同と協力のもと、紆余曲折を経て2年間の業務と学業の両立を無事に終えた。やや遅きに失した感のある、四十歳代後半での「手習い」へのチャレンジではあったが、これまでのフィールドには無かった、①有益な知識やスキルの習得、②広範

な視野を養う学習体験、そして、③素晴らしき異業種間とのネットワーク形成に至る成果を得た事例などをご紹介することにより、会員諸兄の自己啓発の一助になれば幸いです。

## 2 社会人向け大学院について

### 1) 学べる分野

一般的に「大学院」というと、学部卒から研究者を養成する学術専門機関のイメージが濃いが、2000年以降我が国では、①業務上の問題解決スキルの向上、②新規資格取得、そして、③自己のキャリア・アップなど、さまざまな社会人の学びのニーズに応えるべく、経営や技術、知財、会計、法律、政治、情報、システム、福祉、そして、環境などの多くの分野に呼応し、社会人が学びやすい環境を整えてきている。

なかでも、その一例となるビジネス系分野における代表格は次の通りである。

#### ① MBA (Master of Business Administration) : 経営学修士

経営全般に関する知識やスキルに加え、問いに対する答えを見つけ出す思考回路を身に付けることを目的としている。すでに国内では、MBA およびそれに類する 61 コースの選択肢があり、社会人大学院の中でも最も知名度が高く且つ歴史もあり、企業派遣の実績も多い。

「経営戦略」や「マーケティング」、「ファイナンス」などを始めとする分野から幅広く学習し、“経営のプロ”、“リーダーに求められる総合力”を養成する。

#### ② MOT (Master of Management of Technology) : 技術経営修士

先端技術と経営の知識を持った人材を育成することを目的としており、モノづくりやサービスなどの技術を企業利益に結び付け

るノウハウを習得する。

MBA に比して歴史は浅いものの、国内に国公立・私立大学院合わせて 16 校開設されており、MBA 同様の経営カリキュラムに加え、「技術戦略」、「技術イノベーション」、「新事業開発」などの技術経営に特化したカリキュラムから、“経営企画のリーダー”や“研究開発部門のリーダー”、そして、“ベンチャー起業家”などの人材育成を目的としている。別称、「理系版 MBA」と呼ばれている。

#### ③ MIP (Master of Intellectual Property) : 知的財産修士

近年、知的財産分野への注目度が高まっている。技術やデザイン、商品ブランドを始め、IT コンテンツビジネスなど、企業における知的財産管理は重要な位置づけを占めている。

企業の知的財産マネジメント能力、権利侵害事例の知識と対処スキルを習得することを目的としており、弁理士試験の科目試験免除も可能となるメリットを有する。

その他、「IT・情報技術」、「環境・公共政策」、「教育・心理・福祉」、そして、「芸術」系分野に特化した学びも選択し易い環境となっている。

## 3「技術経営修士(専門職)」概要

### 1) 「技術経営」とは？

「技術経営」は、「Management of Technology (通称：MOT)」とも呼ばれ、その意味合いは、①「技術をベースにした経営全体」、②「技術開発活動のマネジメント」に大別されて使われる。

前者①は、「技術による経営」、という技術経営の定義である。これは経営全体が主体であり、そのベースを技術に求めるという修飾句がついている。経営の対象は、企業の中の経営が扱う全ての事柄で、それを考える際の焦点を技術にする、ということである。

一方後者②は、前者①に比して狭義な、「技術を開発するプロセスをどのようにマネジメントするか」、という問題を技術経営と定義している。所謂、「技術の経営」であり、経営あるいはマネジメントの対象を技術に限定しているのである。

つまり、技術をベースにした経営とは、企業の競争力・付加価値生産力の源泉を技術に求める経営と考えることができる。当然そのためには、技術開発活動とそれを市場に繋げるためのマネジメントが重要な中核的部分となる。広義な技術経営の中心に、狭義の技術経営が位置することとなる。

現在の「技術経営 (MOT)」は、a) 理工学と経営学を融合させた教育・研究を行う大学院修士課程の講座、b) 企業戦略に合致した技術戦略を立案できる技術者に与えられる資格 (理工系の MBA)、c) 企業において技術を経営戦略に活かすことのできるマネジャー、そして、d) 技術を中心にした経営戦略・マネジメント手法、などの意味合いを持っている。

## 2) MOT の歴史

米国のビジネススクールに MOT プログラムが登場したのは、今から半世紀以上前の 1960 年代の「アポロ計画」技術マネジメント研究に端を発している。1981 年「マサチューセッツ工科大学 (通称:MIT)」の MBA コースに、テクノロジー・マネジメントに関する諸科目を加え「技術経営コース」として派生した。その後、インターンシップを中心に産学連携で、「技術」と「経営」を一体化した実学を目指すものとして、技術系業務に携わった経験者を対象に全米の大学院に急増した。現在 160 を超える MOT コースが米国内に設置され、毎年 1 万人規模の人材を世に送り出し、彼らが米国製造業の復活に貢献した実績は誰もが認めるところといえる。

その背景には、我国を始めとするアジア諸

外国の攻勢への対抗措置としての、米国内産業の国際競争力回復による「財政赤字」、および、「経常収支赤字」の改善に必要な人材育成の狙いがあったと考えられる。

## 3) なぜ MOT が必要か？

毎年発表される「WEF (世界経済フォーラム)」や、「IMD (経営開発国際研究所)」の国際競争力格付けにおいて、我国は、科学・技術・研究開発の水準では世界のトップクラスにありながら、マネジメント面では極めて低いとの評価を受けている。

この問題に関連しているのが、「死の谷」と、「ダーウィンの海」である。「死の谷」は、研究開発と製品開発の間に横たわる深い谷のことで、研究開発から生まれた折角の技術が製品化まで辿り着かず、死蔵されてしまうことを指している。「ダーウィンの海」は、「死の谷」を乗り越え、研究開発の成果として技術を新製品に結び付けても、多くの魚が厳しい生存競争をしている大海を泳ぎ切り、目的地に辿り着くまでに沈んでしまうことである。新製品を売り出せば、市場競争に勝ち続けなければならない、そのためのマーケティングや拡販など、企業活動のあらゆる面において絶えざる進化が求められる。

いい技術があっても製品化に結びつかないのは、研究開発のあり方の問題と考えられる。本来企業の研究開発は、川上から川下までの流れをすべて視野に入れて行う仕事であり、有益性やインパクトのある研究や技術の部分だけを取り出してしまうことで、視野狭窄に陥ってしまう。この状況から抜け出すことが MOT の第一歩である。

また研究開発は経営そのものであり、自社製品の原材料調達から始まり、生産、物流、マーケティング、そして、営業・販売までの流れが全部見えてこなければならない。

技術を全体の流れの中で捉えることが重



要であり、その企業の経営哲学の問題である。21世紀は、「知の世紀」、「創造の世紀」といわれ、市場に送り出す製品も、性能や品質が優れているだけでなく、「快適である」、「使って楽しい」、「豊かさを感じる」、といった感性に訴えるような経験価値やサービスが同時に求められる時代である。技術と市場と経営を結びつけるイノベーションが必要な時代であるからこそ、技術とその価値を正しく評価でき、それを経営戦略に活かしてゆける人材の養成が求められているのである。MOTの重要性と期待効果を取り纏めると次の通りとなる。

- ① 技術を有効に経営に結びつけることによって、他社との競争上の差別化ができる。技術は差別化の最も重要な要素に成り得る
- ② 技術をタイミングよく製品(サービス)開発に結びつけることができれば、技術の「賞味期限」を逃すことがなくなる。優れた技術も「生もの」である
- ③ 技術と経営の両方を理解できる人材の層を厚くすることで、技術経営戦略の議論が活発になり、精練され高度なものとなる
- ④ 技術の基礎にある科学を含めて、技術・製品(サービス)・市場の流れをシームレスで捉えることのできる人材を育成できる
- ⑤ 技術革新は、全社他部門にも新たな革新をもたらす切っ掛けとなる可能性を秘めている

#### 4 受験と費用

- 1) 学生募集要項(例:東京理科大学大学院)
  - ・募集人員:技術経営専攻 60名
  - ・出願資格(次の①~⑤のいずれかに該当する者)
- ① 学士の学位を有する者
- ② 専修学校の専門課程(修学年限が4年以上であること、その他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り)で文部科

学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

- ③ 文部科学大臣が指定した者
- ④ 修士の学位を有する者
- ⑤ 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

**\*出願資格⑤により出願する者は、独自の出願資格審査がある。事前に専門職大学院事務室(技術経営専攻)に要問い合わせ。**

・出願書類

- ① 入学願書(最近3ヶ月以内に撮影した写真1枚を貼付)
- ② 大学卒業証明書、又は大学院修了証明書
- ③ ②に係る成績証明書
- ④ 履歴書
- ⑤ 志望理由書
- ⑥ 面接に係るアンケート用紙
- ⑦ 奨学金申込書(希望者のみ)

・選抜方法

入学者の選抜は、「出願書類」の履歴書、志望理由書、面接の検査結果により判定される。

- ① 面接は、受験生1人25分程度
- ② 面接は、最初に10分以内でプレゼンテーションによる自己アピールを行い、引き続き、出願書類及びプレゼンテーション内容に係る質疑応答を行う
- ③ プレゼンテーションでは、これまでの職歴等による業績等や、志望理由書に記載した事項、またはその他の事項で特に強調したいこと等を自由に発表する

私の場合、「東京工業大学大学院(国立)」、「東京理科大学大学院(私立)」、そして、「日本工業大学大学院(私立・短期1年コース)」の3校受験を視野に入れ、それぞれに必要な準備(卒業証明書、成績証明書、履歴書、志望理由書、面接アンケート用紙、2年以内のTOEIC/TOEFLスコア等)しながら、傾向分析と対策検討、同時に最終的に学ぶ大学院選

択を進捗させた。中でも出願資格⑤(商船高専卒・その他の場合)に該当する様、社会人としての業務実績(成功事例・作成論文等)、そして、受験大学院指定の課題論文(例:3000字以内)内容審査により出願資格を得ての受験となった。

2) 費用(例:東京理科大学大学院等)

・検定料: ¥35,000(私立) ¥30,000(国立)

・授業料(初年度合計費用: ¥1,670,000)

① 入学金: ¥200,000(初年度のみ)

② 授業料: ¥1,170,000(年間)

③ 設備費: ¥300,000(年間)

私立大学院の場合、2年間の履修課程にて合計: ¥3,140,000の費用が必要となり、国立の場合は略半分(例:東京工業大学大学院 ¥1,353,600)程度となる。また以前、国からの支援は最大10万円程であったが、現在では「厚生労働省・専門実践教育訓練給付金」の枠が最大96万円に拡大され、各大学院の奨学金制度(金利ゼロ)も併用し、経済面の負担を軽減しての学びの場が提供される趨勢にある。

## 5 学びの環境とシステム

1) 履修方法と修了要件(例:東京理科大学大学院)

①修業年限は2年間で、38単位以上を修得し、必修科目の2年次「ゼミナール2(8単位)」では、修了時にMOTペーパー(修士論文相当)を提出することが修了要件となる

②全科目領域(演習科目群を除く)の基幹科目から4科目以上を履修し、修得する必要がある

③各科目領域(演習科目群を除く)から1科目以上を履修し、修得する必要がある

④演習科目である、「テーマプロジェクトA・B」の中から1科目以上を選択必修科目として履修し、修得する必要がある

⑤履修登録できる1年間の単位数上限は40

単位とする

⑥以上の修了要件を満たせば、学位として「技術経営修士(Master of Management of Technology)」が授与される

2) 開講時間帯

①平日(月~金曜日)

・6時限: @18:30 ~ 20:00

・7時限: @20:10 ~ 21:40

②土曜日

・1時限: @09:00 ~ 10:30

・2時限: @10:40 ~ 12:10

・3時限: @13:00 ~ 14:30

・4時限: @14:40 ~ 16:10

・5時限: @16:20 ~ 17:50

・6時限: @18:00 ~ 19:30

\*「テーマプロジェクト」、及び、「ゼミナール」は土曜日に開講

当時は東京都内の船舶管理会社勤務であった故に、飯田橋・神楽坂のキャンパスへ平日は2日間、土曜日は午後の履修にて、2年間44単位以上を修得する計画を立て、出張業務・その他で出席日数が不足し、単位未修得となるケースも想定し、悲喜こもごも無事に修了要件を満たし学位を授与された。

学生の中には、大分県から金曜日の夜羽田へ飛び、土曜日の全講義を履修し、日曜日には大分県に帰省することを2年間継続し、修了した強者企業経営者の他、同じゼミには、79歳(当時)の元大手ケミカル製造会社専務から、引退後大学教授まで務めた人生の大先輩(故河村健太郎日本郵船株社長と高校・大学のご同期)も含め、多彩でモチベーションの高い仲間にも囲まれ、決して楽ではない業務との両立も、何時しか楽しみとなっていた。「ドロッカー」や「シュンペーター」など経営学に殆ど無縁であった上、財務や管理会計も理解できていない(財務諸表がまともに読み取れない)のが、幾度となく困難なテーマに対峙し、選択と集中、そして、時間の効率

的運用をマスターし、「いつまでにやる」ではなく、「いつならでできる」という業務推進の手法や、ロジカルでラショナルな思考回路形成にも役立っていると実感している。

## 6 おわりに

そもそも技術とは、「自然界が内包している豊かな論理全体の中から、人間の認識の中へ体系的に切り取られ、他者による再現や利用が可能ないように体系化された論理的知識の総体」といえる。この知識の総体を使って、企業は市場から購入するインプット（経営資源：ヒト・モノ・金・情報）を価値の高い製品やサービスに転換して、企業のアウトプットとして市場で売ることにより利益（対価）を獲得している。つまり企業活動とは、その「技術的変換（インプット→アウトプット）」であり、その価値の源泉が技術である。

我々海技者には、自然界（現場）に根付いた多くの経験・知見があり、それらを有益なアウトプットに変換することで価値の創造に繋げることが期待されている。

一方我国では、教育課程を終えて仕事に就いた人々を“社会人”と呼ぶが、これに呼応する適切な英訳はないと考えられる。あえていえば、“Working Professional”若しくは、“Working Person”といったところであり、これらは「将来、改めて教育機関で学び直す予定はなく、その後は企業で働き続ける人」という日本的な意味合いと捉えられる。

つまり我国では、いったん社会に出ると教育機関で学習することを前提としていない社会通念であった。それがグローバル経済への転換、産業構造変化への対応から、「社会人の学び直し（専門性のスキルアップ）政策」が文部科学省より打ち出されるようになった。国策や組織による、個人の能力開発に追い風が吹きつつあることは喜ばしい限りであり、技術系ビジネスパーソンとして、今後

生き残って行くための能力形成とキャリア開発に、社会人大学院での学びは有益な選択肢のひとつといえる。

また、新たなサービスや製品開発のプロセスは研究に似ており、大学院という場合は高度なスキルを学ぶに適しており、異業種や異文化の学生との切磋琢磨により、会社組織の枠を越えた、人的な財産となる繋がりが広がることもメリットだと考えられる。

実例として、2013年1月、日本郵船(株)の本店において、「川本信彦 元本田技研工業株式会社社長」による、郵船グループ社員向けの特別講演会（「HONDA F-1 から技術と経営を考える」）が、「郵船機関長士会」主催にて開催されたことは、異業種交流のプレゼンスとして記憶に残るべきことである。日本郵船(株)工藤社長（当時）の激励や同社庄司経営委員（当時）・事務局機関長士のご協力、本田技研工業(株)広報部殿、そして、同社栃木研究所に保管される、珠玉の「F-1 エンジン（2基：①V型 6気筒 1500cc 過給式 1988年モデル、②V型 12気筒 3500cc 自然吸気式 1992年モデル）」が、先方ご厚意により持ち込まれたことで華を添えた。（川本元社長ご本人は、研究所保管の「F-1 車両（マクラーレン・ホンダ）」を持ち込みたいと仰ってくださったが、搬入設備都合上残念ながらお断りさせていただいた）

勿論、「技術と経営」に関わる実務経験を通じた、技術者、そして、経営者としてのミクロ・マクロ視点の知見を享受できる講演そのものも有益であり、「ここだけの話」を含む懇親会での歓談もプライスレスな機会となった。

ここに手前味噌な一例をご紹介したが、年齢や経験を問わず“自分を磨く”ことに情熱を注ぐことのできる会員諸兄に、手習いをおすすめする次第である。 以上

# C号航海記（第4回）

内海水先区水先人会水先人 会 員 栗 阪 肇

前号まで： 船長初実職としてC号に乗船したのは、熊本県苓北でした。その後、豪州 Dalrymple Bay、広島県竹原、横浜、Dalrymple Bay、福島県小名浜、豪州 Abbot Point に寄港して長崎へ向かうのでした。

## 6-22) 食糧管理

船長にとっての重要な仕事の一つに「食糧管理」があります。本船乗組員1人1日分の食材費は、7.50米ドルです。乗組員は全部で21人。1ヵ月31日として約5,000米ドル。当時は1米ドル90円であったので、約44万円です。

C号は、著者が乗船してからは豪州と日本とを往復していました。豪州も日本も食材が諸外国と比べて高いのです。その上、食糧を現金で買えば10%割り引いてくれる船食もあるのですが、会社からの指示で本船は基本的に「サイン払い」つまり、サインだけして支払いは会社が行うのです。

## 6-23) 長崎

初めて長崎を訪れたのは、中学校の修学旅行でした。その次は、商船学校1年生で練習船「銀河丸」。2年生の練習船「北斗丸」。3年生の練習船「大成丸」による乗船実習でした。その後、ずっと寄港したことがなかったのですが、まさか本船で来るとは夢にも思いませんでした。

苓北発電所は、「不開港」です。「不開港」とは、関税法の定める外国との通商を許されていない港のことです。そのため、石炭を揚げる時には、苓北の近くにある長崎港へ入港し、入国管理、検疫、税関の検査をあらかじめ

め受けなければなりません。飛行機で海外から戻って来た時の手続きと、船も同じです。苓北に停泊していた前船の揚荷が強風のために遅れたので、本船が長崎に停泊、正確には錨泊していた時間が延びて4日間となりました。

この冬場の季節、長崎港の指定錨地は、北または北西の強風が吹き付けることが多く、狭い湾内にいることは本船にとって危険です。風が強くなると、走錨により付近の浅瀬にのし上がる可能性が高くなるのです。

強風が収まった後、別の悩みが生まれました。本船は指定錨地Bにいますが、そのすぐ東。すぐ東といっても500mはありますが、そこに内航船が無許可で投錨したのです。当直であった一等航海士から連絡がなかったため、著者が気づいた時には日没後で船名が暗くて見えません。それでも、無線と汽笛、昼間信号灯（サーチライトのでかいやつ）を使い、内航船を呼び出しましたが応答なし。本船も内航船も錨泊しているため、風潮流により錨を中心にそれぞれの錨鎖を半径として動き回っています。本船は錨鎖を248m繰り出していました。錨鎖を繰り出しているのが船首ですので、そこから船尾まで229m。つまり、本船だけでも477m分の半径があるので、内航船と本船とが逆向き（例えば、時計回りと、反時計回り）に回り出したら衝突します。

急いで長崎の代理店に連絡すると、保安部（海上保安庁）に頼んでくれとのこと。保安部をVHFで呼ぶと、1時間30分後に長崎港の基地から駆けつけてくれました。保安庁の巡視船が内航船の隣でサーチライトやマイ

クを使って呼びかけてもなかなか応答がありません。乗組員は全員寝てしまったのでしょうか？ しばらくして、内航船は錨を揚げて次の場所に向かいました。これも初めての経験であったので、ひやひやしました。

強風と内航船の問題が解決すると、1ヵ月ほど長崎にいたい気分になりました。そう言えば、本船の入港手続きをした代理店の話によると、ここでは本船乗組員、上陸禁止でした。代理店は、長崎市出島に事務所を構えております。その事務所から、タグボートで本船まで入港手続きのため、わざわざ訪船されたのです。いつもは、小さいボートで訪船なのですが、今回のように季節風が強い時は、危険なのでタグボートを利用するそうです。船が大きく揺れて、代理店が本船に乗り移ることができないからです。



タグボートから本船へ乗船する代理店

#### 6-24) 練習船「大成丸」

長崎を後にした C 号は、一路、熊本県天草郡にある九州電力苓北発電所を目指します。1月30日の昼頃でした。本船の左前に懐かしい船影が見えてきました。彼女の名前は、練習船「大成丸」。そう、私が商船学校時代(95年10月)1ヵ月の短期実習でお世話になった練習船です。当時は、運輸省航海訓練所に所属していました。(今は、独立行政法人海技教育機構となっています)3年生の時、東京で乗船し、小樽、島根県大社(仮泊)、長崎と寄港し、神戸で下船しました。

大成丸とすれ違った C 号は、長崎半島を



長崎半島ですれ違った大成丸

に見ながら、針路を南から東へと変針しました。1月下旬でしたが、珍しくぽかぽか陽気で、長崎から苓北まで漁船が多数操業していた他、大型船も少なく快適な航海でした。しばらく走ると、富岡城のある富岡半島と、その向こうには雄大な雲仙が大きな手を広げたように、4ヵ月ぶりに寄港する本船を待っていたのです。

#### 6-25) 苓北発電所

九州電力苓北発電所。発電量は140万kW、熊本県全域に供給する電力の2/3をまかっています。原子力発電所が完全な再稼働できない今、日本にとって、熊本県にとって、最後の生命線であるのが、この石炭を燃やす火力発電所です。「どんなことがあっても、発電を止めてはならない」それが、我々関係者の社会的使命です。ここで乗船して早4ヵ月。



苓北発電所での揚荷

色々なことが本船上で起こりました。ここでお世話になった方から伺いました。

「キャプテン（著者のこと）、4 ヶ月前と比べて顔つきが変わってきましたなあ」お世辞だと思います。でも、嬉しかったことは確かです。重大な連絡〇〇の件で、多数の関係者が訪船しました。私は訪船者の対応だけで手一杯でした。前回の出航時には、余裕がないので本船の進路である前方ばかり注意して操船していました。でも、今回は余裕があったのでしょうか。苓北を後にする本船の後ろには、富岡城が。そして、そのずっと後ろには雲仙があって、一直線上に重なっていました。あたかも、いつまでも、いつまでも、雲仙と富岡城とが本船に手を振っているようでした。「また、来いよ！」と言っているようでした。



富岡城と四季咲館(洋上から)

## 6-26) 鹿児島

話が前後しますが、前船 B 号を下船する直前、B 号 2 人目の船長から伺いました。「前任船長が、体調が良くないので入院している」と。B 号を下船して、本船 C 号に乗船するために愛媛県四国中央市から岡山県倉敷市へと引っ越しのため休暇中バタバタしておりました。しかし、どうしてもお世話になった元船長のことが気になって入院されている鹿児島大学付属病院にお見舞いに行くことにしました。

JR 岡山駅から鹿児島中央駅までは新幹線「みずほ号」で 1 本です。その道中、本船の乗船地が熊本県苓北とは決まっていませんでしたが、列車が熊本駅を過ぎたあたりから

西方（右手）遠くにそびえている山が気になっていました。（本船に乗船する時に知ったのですが、その山とは長崎県雲仙でした）熊本県から鹿児島県へと入り、新幹線は山の中をひたすら突き進みます。鹿児島中央駅は在来線駅とは直角に交差し、しかも終点駅のため「T の字」となっていました。

新幹線を下車し、バスで病院へ移動しようと試みました。バス停で待つこと 30 分以上、バスは来ないので時刻表をもう一度確かめると、当日は土日なのですが、間違えて平日ダイヤを見ていました。すぐに、鹿児島駅へ引き換え汽車で最寄駅へ向かい、そこからタクシーでお見舞いに行くことにしました。

あらかじめ電話でお見舞いに行くことを元船長にお伝えしていましたが、わざわざ倉敷から伺ったので喜ばれました。当時の私の上司（船舶管理会社の部長）から、元船長宛に、B 号一等航海士であった当時の考課依頼がありました。この考課を見た当時の上司は、B 号を下船した後、次の乗船を先延ばしにして約 1 年の海務課（陸上）勤務を著者に命じたのだと理解しています。ところが、交代者の手配ができず大分に到着する直前に「もう一航海、ブラジル往復してくれ」と、陸上勤務を一航海（3 ヶ月）延期するよう業務（変更）命令を発したのです。これには、当時の著者も絶句しました。約 1 年間、船長になるのに無駄な時間を浪費してはならない（先延ばししてはならない）と判断した著者は、会社の方針に反対し下船、退職する道を選びました。そのため、本船に乗船するために愛媛県から岡山県へと引っ越しをしたのです。その勇氣ある決断を応援してくれたのが、上記「考課」でした。その元船長が B 号を大分で下船される時に、会社に内緒で考課のコピーを著者に下されました。大分を出帆直後、考課表が入った封筒を開封して中身を確認すると、とても嬉しかったことを、今でも覚え



桜島

ています。

日帰りでお見舞いを予定していましたが、元船長の勧めで、鹿児島市内で1泊し、翌日市内を観光することにしました。鹿児島市内を観光するのは、商船学校時代、練習船「海王丸」での寄港（97年4月）以来です。宿泊したホテルはJR鹿児島駅から徒歩10分のところにありました。朝食を済ませ、荷物をホテルのフロントに預けて、いざ出発です。フロントで観光用の地図をもらい、まず駅へ向かいました。そこから路面電車が走っている通りを線路伝いに進むことにしました。天文館通り、NHK鹿児島局、港、デパート、鶴丸城跡、美術館、東郷平八郎誕生の地。今でこそビルが立ち並んでいますが、幕末・明治の時代には鹿児島市内にいればどこからでも桜島が見えていたことがはっきりと分かりました。（ちなみに、現在よく目にする桜島の写真は、鶴丸城跡の後ろにある城山観光ホテルから撮影されたものであることも、今回の鹿児島訪問で判明しました）活火山（ここでは桜島）を見ていると、「地球は生きている」ことが身近で実感できると思います。活火山からの噴煙は、地球の内部からの直接のメッセージだからです。（最古の噴火記録は764年。）頻繁に噴火します。忘れた頃に大噴火します。噴煙のため鹿児島中央駅で下車したとたん、慣れない著者の目は火山灰のためしょぼしょぼすることもあります。



東郷平八郎誕生地

台風、豪雨、地震もそうですが、火山活動も大自然の一部です。常に桜島を目にすることができる鹿児島市内やその周辺で生まれ育つと、その方の生き方や、ものの考え方など桜島のようになるのではないかとそれらを総称して「県民性」と表現するのだと思いました。

鹿児島中央駅の新幹線のりば。「車止め」で止まったレールのその先（延長線上には）駅前広場があり、さつま焼酎「白波」看板のあるビル。その向こうには、鹿児島市内、錦江湾、そして、桜島へと続きます。鹿児島本港と、桜島の主要港である袴腰（桜島港）とは、フェリーで24時間結ばれているそうです。

普通の駅構造だと新幹線ホームは在来線ホームに対し平行、もしくは、平行に近くするのだと著者は理解しております。Tの字の鹿児島中央駅（旧西鹿児島駅）は、鹿児島市民から全国へのメッセージだと受け取っていました。メッセージとは、桜島。桜島から感じることのできる地球内部からの言葉。その言葉が、九州新幹線、山陽新幹線、東海道新幹線のレール上を走り、沿線の住民、福岡、広島、神戸、大阪、京都、名古屋、横浜、東京の人々へと届くといいな！

元船長は、今時珍しい「こらっ！」と大き

な声でしかる おじさんです。正義感が強く、感情を表に出し、時々噴火する(?)ところは桜島と同じではないでしょうか。次から、休暇中から乗船中へと「時計の針」を戻します。

## 6-27)〇〇発表

茶北を出帆後の2月5日、またしても一通の電子メールを受け取りました。海務部長から「〇〇を発表してもよろしい」との業務命令です。〇〇とは、「売船」のことです。本船は、間もなく他船主に売られることになるのです。著者も初めての経験です。何が起こるのか見当もつきません。どんな仕事を追加で遂行しなければならないのか、疑問だけです。とりあえず、今まで売船を経験した乗組員に教を乞うことにしました。

茶北でたくさんの訪船者があったのは、本船をこれから買うバイヤー(売船先の関係者)だったのです。バイヤーは写真を撮影したり、スミからスミまで本船を調べたので、乗組員にも、うすうす感じていたと思います。C号との航海も、あと1、2航海。そう思うと、何だかちょっぴり淋しくなりました。「もっと教えてもらいたいことがあるのに。」今の著者の心境です。

## 6-28)Sulawesi島

茶北を後にし、鹿児島県の西を南下し、奄美諸島を右手に見ながら、本船はどんどん南下を進めました。北太平洋を進み、フィリピン国ミンダナオ島を右手に針路を南から南西へと変えます。ちょうど、ミンダナオ島 Davao City の沖にさしかかりました。Davao City の沖を過ぎると、セレベス海へと入ります。一等航海士となって2隻目に乗船していた2006年、1ヵ月に2、3回の頻度でこのセレベス海を航海していました。インドネシア国カリマンタン(Kalimantan,または、



セレベス海

Borneo) 島 Bontang から日本へと、LNG(液化天然ガス)を運ぶためでした。

セレベス海の南には、Sulawesi 島が横たわっています。Sulawesi 島の東には、マゼラン艦隊が西回りで目指したモルッカ諸島の Halmahera 島が浮かんでいます。Sulawesi 島と Halmahera 島も、どちらもアルファベットの「K」そっくりの形です。Sulawesi 島を大文字の K としたら、Halmahera 島は小文字の k です。西から順に、カリマンタン島、Makasar 海峡、Sulawesi 島、モルッカ海、Halmahera 島。この3島は、いずれも赤道が島を東西に走っています。常夏の島です。



Sulawesi島

セレベス海から目的地の Muara Satui の面しているジャワ海まで、いつものことですが、湖の上を走っている錯覚になります。ほぼ無風で、海面が鏡のようだからです。熱帯夜は、暑くて眠れません。LNG 船で訪れた赤道直下の Bontang を過ぎ、南下を続けていると、



南下を続ける本船の左側に続く大文字の K、Sulawesi 島の山並みが生家の山並みとそっくりでした。故郷と違うのは、熱帯地方の植物が茂っているので、山が一年を通して「新緑」色であることです。遠望だからでしょうか、所々スクールにより山から水蒸気が昇っていましたが、新緑色がまぶしかったです。

## 6-29)Muara Satui

Muara Satui のあるインドネシアを訪れるのは、何年ぶりでしょうか。Bontang に毎航寄港していた LNG 船の後、2 隻の LNG 船に乗船していた時、乗組員はインドネシア人と日本人との混乗、積地はインドネシア国スマトラ島の北端 Blang Lancang (アチェ州) でした。Muara Satui 港では、本船は大き過ぎて港に入れません。そこで、港外の錨地に仮泊してそこで荷役設備を持った船がやってきました。その特殊船を本船に横付けして、石炭を積みました。

## 6-30)日御碕

石炭の積地 Muara Satui を出帆し、次に向かったのは富山新港でした。その道中の話です。島根県にある出雲大社から北西 3.2 海里に有名な灯台があります。「日御碕」Hi-no-Misaki と言います。ここから、話が脇道へと入ります。灯台の光は、それぞれの灯台によって異なり、船乗りが灯台を間違わないようにしています。その灯台の光方などを「灯質」と呼びます。灯質は、海図などに記載されていますが、例えば、Al Fl(2+1)W R 20s 21M とは、Alternating composite group flashing、つまり、複合群閃互光。1 周期内の複合群閃光の各群閃光又は群閃光と単閃光とが互光となるもの。です。WR は、色、20s は、光る周期です。毎 20 秒に 2 閃光 (白) と 1 閃光 (赤)。最後の 21M は、光達距離。自分の眼高を海面から 5m と仮定して、21 海里

(39km) 離れたところから見えることをあらわしています。有名な灯台とあって、遠くからはっきりとわかるように特徴づけられています。

2 月 24 日朝 5 時ごろ、誰かに起こされたような気になって船橋に登ると、右手にこの日御碕灯台が光っていました。ここ島根県沖を航海するのは 5 年ぶりとあって、懐かしくてしばらく灯台の光を眺めていると、「出雲大社の神様が、私を手招きしている」と感じました。

初めてこの沖を航海したのは、商船学校 3 年生の時。長崎沖ですれ違った練習船「大成丸」に実習生として乗船していた 95 年 10 月でした。ちょうど、小樽から長崎に向かって日本海を南下していました。その道中、出雲大社のすぐ近くに開けている大社港沖で仮泊し、カッター (短艇) を大成丸から降ろしてそのカッターを漕いで、学生たちは徒歩で出雲大社に参拝したのです。確か、小学生低学年の時に訪れたのが最初だから、その時は 2 回目。大成丸にお世話になってからは、社会人として 60 回以上もここを走っていますが、あれから 18 年間一度も参拝していませんでした。

「しまった・・・！」だとすると、私を深い眠りから起こしたのは やっぱり「出雲の神様」だ！！

「ようし！次の休暇は、出雲大社に行こう」「ご無沙汰して、申し訳ございませんでした」と素直に謝れば、神様もきっと許してくれると思う。「これまでの日本海における安全航海についても、お礼を言わなくっちゃ」18 年もご無沙汰しているので、「御賽銭は、いつもの 2 倍は必要だよなあ？」 (次号へつづく)



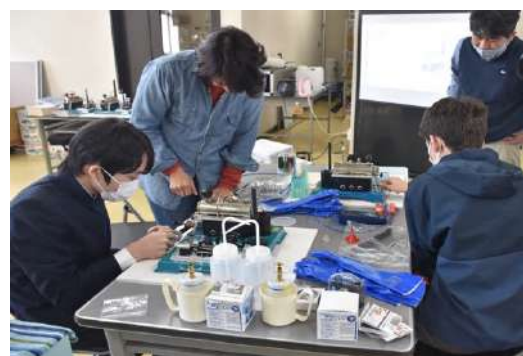
## 富山高等専門学校

### ○ 機械系+商船系コラボイベントを開催

令和5年10月14日(土)に中学生を対象とした機械系+商船系コラボイベント(事前申し込み制)を開催しました。海事産業の重要性や商船学科・機械システム工学科について広く知ってもらうことを趣旨として各学科の特徴を現した講座を用意しました。商船学科ではチャートワークや材料の硬さ試験、機械システム工学科では蒸気機関の模型やスターリングエンジンの動作実験を行いました。本校や学科の特色を知る機会となったこと、商船系・機械系の体験が非常に好評であったことがアンケートからも伺えました。



材料試験のデータ整理



エンジン模型実験



学科紹介



チャートワーク講座

### ○ 秋季オープンキャンパスを開催

令和5年10月28日(土)と29日(日)の両日、秋季オープンキャンパスが開催されました。1日目は「船の仕事を見てみよう 海と船と港を学ぶ」と題して練習船「若潮丸」に乗船し、参加者は船から港や海を眺め、富山の物流や船の動く仕組みを学びました。2日目は「海運のエッセンシャルワーカーの仕事体験」、「操船や荷役を行う航海士の仕事を体験してみよう」、「船の運航を支える機関士の仕事を体験してみよう」と題して、本校設備のシミュレータや海図、実際の配管部品を使った作業体験を行いました。

はじめに航海コース・機関コースの説明があり、本校の学生らによる学校紹介の後、体験型授業が提供されました。学科紹介や案内役・説明役を担った本校学生らも進路を考える際にオープンキャンパスへ参加した経験があり、今回参加した学生が本校を志願し、入学した後、また中学生を対象としたイベントでの学校紹介を担ってほしいと思います。少しでも富山高専での学びや魅力、実習での経験について、実感として知ってもらえる機会になると幸いです。

### ○ 進学個別相談会を開催

11月26日(日)と12月2日(土)に本郷キャンパスと射水キャンパス両方で進学個別相談会を実施しました。富山高専に興味がある、具体的に進学を考えている中学生・保護者を対象に本校教員と話をする機会となりました。相談会は対面だけでなくオンラインや電話でも対応しており、遠方からも参加された方がおりました。希望者には寮の説明も行いました。入試やカリキュラムだけでなく部活動や進路、海外留学など多岐に渡る質問があり個別に回答しました。

### ○ Ti-TEAM を実施

富山高等専門学校1年生が企業の特徴やデータの利活用事例について取材を通じた調査を行い、最後にまとめるTi-Teamを今年も行いました。本郷キャンパス・射水キャンパスの6学科の学生らがチーム(班)を構成し、インターネットを使った調査と取材内容を打ち合わせし、実際に企業に取材を行い、最終レポートを仕上げました。富山高専は工学系である機械システム工学科、電気制御システム工学科、物質化学工学科と、国際ビジネス学科、商船学科で構成されています。多くの分野・学科で構成されている全国でも他にない高専であることが魅力の一つになっております。それら学科の1年生が学科・キャンパスを横断して班を構成し、最終レポー

トの完成を目指します。

第一回は9月28日(木)、第二回は10月19日(木)、第三回は企業(班)ごとに11月上旬に実施されました。各班で作成された最終レポートは学生昇降口に設置されたサイネージでも表示され、学生が普段往来する場所にて紹介されています。

### ○ 令和5年度 商船学科席上課程修了式を挙

令和6年2月27日(火)に商船学科5年生の卒業研究発表会を行い、これまでの学修成果を踏まえて1年間取り組んだ研究成果を発表しました。翌日2月28日(水)には席上課程修了式を挙りました。担任から修了生一人一人の名前を読み上げ、山本副校長からの訓示、修了生代表の誓いの言葉が述べられました。席上課程が修了したあとは、4月から約半年の海技教育機構の大型練習船実習を経て卒業となります。5年半の修業年限を完遂することを願っております。

(教務主事補 商船学科 経田僚昭)

### ○ 学生会長選挙

12月13日(水)、射水キャンパスで令和6年度学生会長選挙が行われました。今回は2名が立候補し、選挙戦となりました。選挙に先立ち、立会演説会が行われました。推薦人と候補者がそれぞれ順番に演説した後、会場からの質疑応答が行われました。

投票の結果、電子情報工学科2年の木下京汰朗学生が選挙戦を制し、令和6年度の学生会長に決定しました。

### ○ 高専フェス

12月15日(水)、射水キャンパスで高専フェスを行いました。イベントでは、フリースタイルダンス部や軽音楽同好会、有志の学生が様々な演技を披露しました。また、ステージの

合間には抽選会も実施し、イベントを盛り上げました。



### ○ 卒業生を送る会

2月27日(火)、射水キャンパスで卒業生を送る会が行われました。卒業生を送る会は、学生会が企画する会で、今回は共通講義室教室のスクリーンに、在校生や教職員からのビデオメッセージ等が上映されました。会場に来た学生はビデオメッセージを観て、友人らとの5年間の思い出に浸っている様子でした。

### ○ 合同リーダー研修会

2月9日(金)、大学コンソーシアム富山において、射水キャンパスと本郷キャンパスの新旧学生会の役員学生が一同に会し、合同リーダー研修会を実施しました。この会では、出席者の自己紹介に始まり、今年度の活動報告や次年度の行事に関する打合せなどが行われました。また、担当委員ごとに分かれてのミーティングも行い、キャンパスを超えて学生間の意見交換や交流を図りました。

### ○ 全国ロボコン2023

11月26日(日)、両国国技館において全国高専ロボコンが開催されました。本校からは本郷キャンパスのチーム、プロジェクト名「GOちゃん」が出場しました。1回戦で10-40と惜しくも破れてしまいました。

(学生主事補 商船学科 小林 大)

## 「北斗会便り」

### ○ “卒業生銘板”17年ぶりに完成！！

本校あいの風会館資料室に展示している「卒業生銘板」に新たに17年分の卒業生の銘板が完成し追加されました。

これで、富山商船高専の卒業生 1,293 名、統合後の富山高専射水キャンパスの卒業生 1,075 名のご芳名を新たに掲示することができました。

学校を訪れる機会がありましたら是非ご覧ください。

### ○ 名簿管理システムの運用開始について

昨年度より「北斗会」、「ほんごう会」および「富山高専同窓会」のメンバーによる「名簿統一化WG」で検討を経て、名簿管理会社として(株)アーティスティックスを選定・契約し、本年6月末にシステムの運用開始を目指し準備を進めています。

名簿管理システムは、富山高専同窓会ホームページ <https://nc-toyama-dousoukai.jp> から、ア

クセス可能です。また、システム内の会員個人の各項目に関する公開・非公開については、会員自身で設定が可能なシステムです。

準備ができ次第、各会員に対し、名簿管理システムへログインするための ID/PW を郵送する予定です。

### ○ 祝 表彰！

以下の北斗会会員の方々が表彰を受けられました。おめでとうございます。

日本港湾協会特別功労者表彰

E33 佐藤昌彦氏

海事関係功労者表彰 近畿運輸局長表彰

N66 香林大介氏

黄綬褒章 (国土交通省)

N63 舘 満治氏

「北斗会」事務局 水谷淳之介



# 鳥羽商船高等専門学校

## ○ 株式会社ZTVと鳥羽商船高等専門学校は包括連携協定を締結いたしました

令和5年10月2日（月）に株式会社ZTVと鳥羽商船高等専門学校は包括連携協定を締結いたしました。

本協定は、包括的な連携・協力のもと、各々の人的・知的資源を活用しながら地域の活性化と人材の育成に寄与することを目指すものです。今後、両者は本協定に基づき、具体的な活動内容の協議を行い、地域に根差した活動を連携して進めることで、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。



## ○ オープンキャンパスを実施しました

令和5年10月7日（土）に本校にてオープンキャンパスを実施しました。

延べ209名にご参加いただき、8月開催の参加者と合わせると709名の参加者数となりました。

最初にメディアホールにて学校紹介・全体説明を行い、終了後、商船学科希望者と情報機械システム工学科希望者に分かれて、校内施設見学を行いました。施設見学では、8月同様に練習船鳥羽丸見学や、実習工場、プログラミング体験などを行っていただきました。

また今回、女子学生特集として、女子学生による研究発表や施設案内を行いました。施設見学終了後は、希望者を対象に学寮説明会、潮騒会館食堂にて学食体験、ロボコン部の見学を実施しました。



参加者からは、教員や学生の説明を受けて、両学科とも好評なご意見をいただき、鳥羽商船高専を知っていただく良い機会となりました。

## ○ 全国高専プロコンで優秀賞を受賞したチームが鳥羽市長を表敬訪問しました

令和5年10月27日（金）に全国高専プロコンで優秀賞を受賞した学生たちが鳥羽市長を表敬訪問しました。



10月14日～15日に福井県越前市で開催された第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストにて、課題部門と自由部門で本校の学生が優秀賞をW受賞！

鳥羽市長に受賞報告と開発した作品のプレゼンテーションを行いました。

今年の4月から制作に取り掛かり、この半年間で学生たちが作り上げた作品のクオリティの高さに鳥羽市長も驚かされていました。

## ○ 高専ロボコン2023全国大会出場決定&東海北陸地区大会・デザイン賞&特別賞受賞！

令和5年10月29日（日）、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023東海北陸地区大会が石川県野々市市の金沢工業大学第二体育館で開催されました。

今年度の競技課題は「もぎもぎフルーツGOラウンド」。2分30秒の試合の競技時間中に、ロボットが角材やロープの障害を乗り越えながら、フルーツに見立てた、ネットに入ったボールを収穫し、その得点を競う競技です。

本校からは、2チームが参加しました。

◆Aチーム「♡ろーりんぐあたっく♡」（指導教員：情報機械システム工学科 脇坂准教授）

◆Bチーム「Show 戦ガニ」（指導教員：情報機械システム工学科 宮崎教授）

地区大会の結果、Aチームが全国大会出場・デザイン賞を受賞、Bチームが特別賞（楸デンソー）を受賞いたしました。



## ○ 高専制度創設60周年記念事業「高専の森」植樹式を挙行了しました

令和5年11月5日（日）に高専制度創設

60周年記念事業「高専の森」植樹式を挙行了いたしました。

高等専門学校（高専）は、1961年6月に学校教育法の一部改正により創設され、1962年4月に第一期校が開校され、2022年に高等専門学校制度創設60周年の節目を迎えました。

高専60周年を節目として未来に向けて高専がますます成長することを祈念し、記念樹を植樹するイベント「高専の森」を全高専にて実施しています。「高専の森」には、持続可能な開発目標（SDGs）の実現と、次の世代の高専生の成長を「高専の森」が見守るというメッセージも込められております。

植樹する樹木は、鳥羽市の木に指定されている「ヤマトタチバナ」です。植樹式では、和泉校長による挨拶後、鈴木英敬 衆議院議員、赤池誠章 参議院議員、中村欣一郎 鳥羽市長及び広重康成 全日本船舶職員協会会長から祝辞をいただきました。続いて、鈴木議員、赤池議員、吉川ゆうみ 参議院議員の代理（秘書）の方、野村保夫 三重県議会議員、中村市長、全日本船舶職員協会の広重会長、同協会の酒迎和成 理事、菅沼延之 同窓会長、江崎隆夫 同窓会事務局長、鳥羽商船高専連携協力会の菊川厚 会長、同協力会の西村譲治 副会長、江崎典宏 高専機構本部理事、和泉校長による「ヤマトタチバナ」の植樹（土入れ）が行われ、最後に江崎高専機構本部理事が謝辞を述べました。

また、同日に練習船鳥羽丸や学生寮、部活動の様子など校内見学会を実施しました。校内見学会は午前と午後の回行い、午前には赤池議員、全日本船舶職員協会の広重会長、同協会の酒迎理事、鳥羽商船高専連携協力会の菊川会長、同協力会の西村副会長、菅沼同窓会長、午後には江崎高専機構本部理事が見学されました。





### ○ GNSS・QZSS ロボットカーコンテストで敢闘賞を受賞！

令和5年10月22日（日）に東京海洋大学・越中島キャンパス（東京都江東区）で開催された「GNSS・QZSS ロボットカーコンテスト」にて、本校学生チームがオンライン部門で敢闘賞を受賞いたしました。

本コンテストは、GPS および QZSS（準天頂衛星システム）等の GNSS（測位衛星システム）を利用する研究者や技術者の相互交流、ならびに大学・高専・専門学校・高校等の学生に対する衛星測位に関する基礎技術の修得機会の提供および技術交流を目的として開催されており、今年で17回目を迎えました。



### ○ 授業見学ツアーを開催しました

令和5年11月18日（土）と11月23日（木・祝）に本校にて授業見学ツアーを実施しました。

この日は本校の授業日となっており、中学生・保護者等含めて79組170名にご参加いただきました。最初に学校紹介・全体説明を行い、終了後、商船学科希望者と情報機械システム工学科希望者に分かれて、校内各所で授業見学を行いました。今回の授業見学では、現役の学生が実際に実施されている授業を体験いただ

たので、より詳しく本校の授業を体験いただくことができました。参加者からは、「実際の学生生活の様子が詳しく知れてよかった。」「専門的なことをたくさん学ぶのだなと感じた。」「生徒同士だけでなく先生との仲も良く、楽しそうだった。」等の好評な意見を多数いただきました。また、授業見学ツアーの後は部活見学ツアーを開催しました



### ○ 「海事キャリア教育セミナー」を開催しました

令和5年12月5日（火）に「次世代の海洋人材の育成」事業の一環として商船学科1年生から3年生を対象とした「海事キャリア教育セミナー」をオンラインで開催しました。今年度は海技教育機構の講師に「船員になるためには」というタイトルでご講演いただきました。講演には船員の業務や船上生活、魅力についての紹介や、船員になるために必要な資格や今すべきことなどの内容が含まれており、聴講した学生たちにとってはイメージが湧きやすく、大変有意義なセミナーとなりました。質疑応答の際には学生から海技教育機構の練習船に関する質問もあり、丁寧にご対応いただきました。





## ○ 練習船鳥羽丸代船起工式が挙行されました

令和5年12月8日(金)、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社(岡山県玉野市)において、練習船鳥羽丸代船起工式が挙行され、本校教職員、同窓会長、商船系高専校長および全日本船舶職員協会会長ら21名が出席しました。

同船は令和6年10月に進水し、令和7年3月に引き渡される予定です。



## ○ 第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest(高専 GCON2023)にて文部科学大臣賞、JFE スチール賞をダブル受賞!

この度、令和6年1月21日(日)、日経ホール(東京・大手町)にて開催された第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest(高専GCON2023)にて、鳥羽商船高専と豊田高専の合同チームが文部科学大臣賞とJFEスチール賞をダブル受賞いたしました。

高専GCONは、女子学生を中心としたチームで日頃行っている研究や学習がSDGs観点からさまざまな社会課題に対してどう貢献できるか考えることにより、未来の研究者・技術者としてさらなる成長を促すことを目的とします。今回、鳥羽商船高専と豊田高専との合同

チーム(チーム名:かきっ娘)は、「CO2を吸収する無焼成スマート牡蠣殻タイル」というタイトルで発表しました。

本取り組みは、ケアシェル株式会社(鳥羽市)、株式会社中島窯業(多治見市)のご協力を得て、産学地域連携によって実施されました。なお、この牡蠣殻タイルはかきっ娘が大好きなサウナの内壁材としての利用を想定しており、鳥羽市の観光をサ活によって振興しようという取り組みにつなげていきます。

### 【受賞作品】

チーム名:かきっ娘

タイトル:CO2を吸収する無焼成スマート牡蠣殻タイル



### 【商船学科航海コース 齊心俊憲 記】

○ 令和6年度の入学式は4月5日（金）に無事、挙行することができました。

今年度は、本科に商船学科42名、情報工学システム工学科80名、情報工学システム工学科三年次編入学の留学生3名の合計125名の新生を迎えることができました。また専攻科生産システム工学専攻にも8名の進学者を迎えました。

本校の新しい練習船「鳥羽丸」の建造が現在進んでおり、命名・進水式は10月初旬を予定しています。

船体の長大化にあわせた浮棧橋も建設工事を経て、これも新しい姿を現す予定となっています。

本練習船は、システム操船および自律操船技術を基盤とした自動運航システムを洋上だけでなく陸上でも実習可能な設備を実装した船であり、将来の船舶運航を見据えての遠隔操船を視野に入れた設備を備えた最先端の練習船です。いわば「スマートシップ」として、未来の我が国の海運を背負った学生諸賢の期待に応えることのできる練習船を迎え入れます。

歴史・文化に恵まれ、国立公園にある風光明媚な地域に立地している高等専門学校であり、教職員一同、その地域および世界で活躍できる科学的思考を持つ高度の技術者の育成に向けて、より一層の努力と研鑽を重ねて参ります。

これまでと同様に各界各位の皆様のご期待とご支援を宜しくお願い申し上げます。

### 【校長 古山 雄一 記】



### 鳥羽商船同窓会だより

陽春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、令和6年3月15日（金）工業系統合後初の情報機械システム工学科卒業式が挙行されました。

小雨模様の中、多くの父兄の皆様や教職員、来賓に見送られ若鳥たち本科80名、専攻科9名が飛び立ちました。

大学進学13名、本校専攻科進学6名、就職70名、全員の進路が決定しています。

今年の求人は、情報機械システム工学科約570件、生産システム工学専攻約490件、相変わらず抜群の人気を誇っています。

和泉校長は退任のため、今回が最後の式辞となり、卒業生全員に卒業証書と表彰状を手渡されました。

祝辞は菅沼延之同窓会長、鳥羽市長代理の小竹篤教育長、野村保夫県議が力強い励ましの言葉で送り出しました。



また、3月19日（火）午後 退任される和泉校長の最後の講演が母校メディアホールで開催され、多くの教職員と地域連携協力会会員、そして同窓会から菅沼延之会長と江崎隆夫事務局長が参加しました。

和泉校長はコロナ禍真っ最中に赴任され、あっという間に3年の任期を終えました。

在任中は令和7年の母校創基150周年事業に向けてのスタートアップ、地域連携協力会の発足、練習船新鳥羽丸建造と浮棧橋の新替えの予算獲得、母校の高度情報化教育育成の指定校採択など数多くの課題を進展、解決に導いてくれました。

まだ多くの懸案を抱える中での退任は同窓会としても残念でなりません。

和泉校長の最後の挨拶で心に残ったのは教職員に対して「決して井の中の蛙になるな」外部との交流をもっと盛んにして交流を深めてほしい、との言葉でした。

私達同窓会も母校との交流を密にして期待にこたえ、互いに発展したいと思います。

送別の懇親会は、鳥羽市内の戸田屋旅館で行われました。

80名くらいの参加でしたが宴会形式の母校の送別会は初めての経験で教職員、事務職員の意外な一面を見て楽しい時間を過ごしました。

和泉校長は今後2年間母校特命教授として月数回は母校に通い、神戸大学から赴任される新校長古山雄一さんと共に事業が山積の母校の運営に協力されるそうです。

健康に留意し、これからも母校のために頑張ってください。



【同窓会事務局長 江崎隆夫】

鳥羽商船同窓会ホームページ内で【会員の投稿】を掲載しております。

最近では、クラス会の様子などが紹介されています。

是非ご覧ください。

鳥羽商船同窓会ホームページはこちらです

<http://tobacmtdousoukai.sakura.ne.jp/>



同窓会 HP QRコード

# 広島商船高等専門学校

## ○ 日本財団出前講座「高専生のためのデジタルインフラ講座」を開催

令和5年10月24日、本校にて日本財団の協力による出前講座『日本が世界をけん引する「無人運航船」—その技術を創る「通信」と「情報処理」を学ぶ』が実施されました。

100名以上の本校学生が聴講し、オンラインにて全高専への中継も行いました。

株式会社 Space Compass の古川氏には、宇宙とそこに生きる技術、人工衛星と通信を題材に講演を行っていただきました。

また、株式会社ウェザーニューズの岩佐氏からは、「みらい」の気象を活用した様々なサービスと最適航路の取り方の技術について学ぶことができました。

最後に株式会社 MTI の柴田氏から、これらの技術がどのようにつながり、どのように向き合っていけばよいのかについてお話をいただきました。

会場からは、参加した商船学科・電子制御工学科の学生から多くの質問が出て、活発な出前講座となりました。



## ○ 本校産業振興交流会主催「企業研究会」を開催

11月21日、本校産業振興交流会の主催で、本校体育館にて企業研究会が開催されました。

本会は、学生が業界や企業のことを学ぶためのもので、午前午後の部を併せて100社（会員企業23社、非会員企業77社）の企業の方が来校され、450名以上の本校学生が各社のブースをまわり、説明や質疑を通して交流し、学習しました。



## ○ 第69回広島県高等学校新人卓球大会および第58回全国高等専門学校体育大会結果報告

第69回広島県高等学校新人卓球大会（学校対抗の部）および第58回全国高等専門学校体育大会（第57回全国高等専門学校体育大会卓球競技）の結果を校長へ報告しました。

### 【大会結果】

- ・ 第69回広島県高等学校新人卓球大会  
男子B級 優勝
- ・ 第58回全国高等専門学校体育大会  
女子ダブルス 優勝



## ○ キャリア教育セミナー開催

11月30日に「次世代の海洋人材育成事業」のサブプロジェクトとして商船学科1年生・3年生を対象に全日本海員組合様ご協力のもと、「全日本海員組合について」「外航船員について」という二つのテーマで、学生に向けて船の種類や船内業務等についてわかりやすくご講演いただきました。

参加した学生からは、「将来を考える良い機会になった」、「これからすべきことについて学ぶことができた」などのコメントがありました。

## ○ 江田島青少年交流の家連携事業「カッター研修」を実施

11月25日、26の2日間にわたり、本校漕艇部が「カッター研修」に参加しました。

江田島青少年交流の家の指導員の先生方から厳しくも暖かいご指導のもと、初日に学生らは基本に立ち返ることから始め、2日目には江田島から宮島までの往復28キロにも及ぶ道のりをカッターで往復し、厳島神社の大鳥居をカッターで潜り抜ける際には、多くの観光客から歓声が上がリ、暖かい声援、激励を受けるなど、参加した学生にとっては忘れられない貴重な体験となりました。



## ○ 非常勤講師に係る授業参観及び懇談会を実施

令和6年1月16日に令和5年12月19日に実施した授業参観の結果をもとに、副校長（評価）、教務主事が参加し、授業内容や教育環境などについて意見交換を行いました。

また、参観した授業などの感想も交えながら、本校の特色などについても話が広がり、今後の教育活動を行う上で有益な体験となりました。



## ○ 江田島青少年交流の家連携事業「プロジェクト江田島 Camp2024」を実施

2月3日にプロジェクト江田島 Camp2024を実施し、16名の小学生が参加してくれました。

本事業は、高専高度化事業の一環で、江田島青少年交流の家との連携事業です。

当日は「プログラミング」と「郷土学習教育（海洋環境教育）」について本校教員及び学生による出前授業を行いました。プログラミングでは実際にパソコンを使用して、画面上に絵を書くプログラムを実施し、郷土学習教育では里海である瀬戸内海の現状や課題を学び、水質の変化を体験できるパックテストなどを行いました。その後参加者が体験した内容を元に学習を深める「Sea to Summit」を通じて、参加者は積極的に発表や発言をし、SDGsの1つである14「海の豊かさを守ろう」というテーマを考えてもらうきっかけにもなりました。

参加者からは配布した教材を元に継続して学習を実施したいとの前向きな声も聞かれ、地域や情報に関する教育支援に寄与することができました。

当日は江田島青少年交流の家の法人ボランティアの方々にも協力いただき、有意義な時間となりました。



### ○ 「令和5年度外部評価委員会」を実施

3月1日、学外の有識者を招いて外部評価委員会を実施しました。

本校の各担当より本校の自己評価書に基づき、教育・研究・広報活動等について説明があり、現在の取組状況及び得られた成果等について報告しました。評価委員による質疑応答も行われ、自己評価書の基準に基づき教育・研究を実施していることがわかるよう具体的な資料を追加してはどうかなどの意見がありました。

委員会の最後に、河口校長から評価委員への謝辞がありました。

### ○ 卒業証書・修了証書授与式を挙行

3月8日、電子制御工学科・流通情報工学科卒業式、産業システム工学専攻修了式を挙行了しました。(電子制御工学科39名、流通情報工学科41名、産業システム工学専攻6名)

校長からは「今後経験する幾多の難関に背を向けること無く、果敢に挑戦し、それらを克服されることを期待しています。」との言葉がありました。

在校生代表からは「学校生活をより明るく、楽しいものに作り替えてくださった先輩方の新しい当たり前を私たちは継承していきます。」

と決意のこもった送辞が贈られました。

春の気配を感じられるこの頃、大きく育った学生たちは保護者・教職員に見送られ、本校を巣立っていきました。



### ○ 広島大・海保大・商船高専7者による包括協定を締結

3月14日(木)に本校を含む5商船高専(広島・富山・鳥羽・大島・弓削)は広島大学・海上保安大学校と海洋・海事に関する研究・教育で連携する包括協定を締結し、同日に海上保安大学校の練習船「こじま」において、調印式を行いました。本協定を機会にそれぞれの組織の強みを生かした教育・研究を推進していく予定です。



【商船学科 金川 静子 記】

## 校 友 会

### 2024年総会のご案内

日時：5月18日(第3土曜日)

場所：ナビオス横浜

総 会／16：15～17：15

懇親会／17：30～19：30

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

広島商船高等専門学校 校友会

月水金 9：00～15：00

TEL 0846-65-3899

Meil : koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

# 大島商船高等専門学校

令和5年11月から令和6年3月にかけて行われた主な式典、教育活動、地域連携活動などを中心に紹介します。

## 1. 式典・催事

○令和5年度卒業証書、専攻科修了証書授与式の挙

行  
令和6年3月19日(火)、本校は、令和5年度卒業証書・専攻科修了証書授与式を挙りました。今年度の卒業生・修了生は、本科電子機械工学科42名、情報工学科47名、専攻科電子・情報システム工学専攻13名でした。

古荘雅生校長は、式辞で、「卒業・修了後は、それぞれの職務に精励し、研究テーマを追求し深く掘り下げながら、大いに活躍されることを期待しています。また、皆さんが描く将来のナビゲーションプラン(航海計画)はさまざまな可能性を秘めています。ひとり一人が個々のプランに基づく着実な一歩一歩であることを願っています。」と祝福・激励しました。



○いじめ根絶と自死事案の風化防止を願い祈念樹を植樹

令和6年3月3日(日)、いじめ根絶と自死事案の風化防止を願い、本校敷地内において祈念樹の植樹を行いました。同日は、平成28年

に自死された学生のご遺族様をはじめ、本校教職員や学生代表ら約20名が出席しました。

植樹した樹種は、「常緑ヤマボウシ」(花言葉:友情)で、学生が亡くなられた5月から同学生の誕生月の6月頃に白い花を咲かせるものであり、ご遺族様のご希望により決められたもので、樹の周囲には芝桜も植栽しました。

植樹場所は、正門近くで、学生・教職員や来訪者の目につきやすい場所であり、今後、ベンチ等を設置するなどして、学生が集える憩いの場となるよう整備していく予定です。

## 2. 教育活動

○「海事キャリア教育セミナー」の実施

令和5年12月5日(火)、「海事キャリア教育セミナー」を実施しました。本セミナーは5商船高専連携事業「次世代の海洋人材の育成に関する事業」の一環として、学生たちに将来のキャリアについて考えてもらう機会を与えることを目的とし、連携機関である全日本海員組合様の協力を得て実施したものです。

セミナーでは、一般社団法人日本船主協会から、海事人材部課長代理様を講師としてお招きし、『「日本の海運と外航船員」～基幹産業としての海運とその担い手である海技者～』というテーマで学生にご講演いただきました。

○WiCON2023 実証実験視察

本校の浅川貴史研究室では、「高専ワイヤレスコンテスト2023」にチーム名「サザンセット・オールスターズ」として参加し、「大規模災害時のスマート通信網の確立」を目指します。

令和5年12月20日(水)、その実証実験の視察としてコンテスト事務局、総務省中国総合通信局、国立研究開発法人情報通信研究機構、

周防大島町総務部総務課消防防災班の方々  
が来校されました。

実証実験は、海上に設置したブイと陸上に設  
置したブイに取り付けた通信装置を使い、通信  
を行うもので、練習船「大島丸」や水上オート  
バイ（PWC）を使用し、技術支援センターの技  
術職員の協力を得ながら進められました。

#### ○アントレプレナー講習会の開催

令和6年1月10日、17日、24日、25日、  
27日の5回、本校において、フューチャーケ  
ースト株式会社代表取締役様による「アントレ  
プレナー講習会」を開催しました。

この講習会は、本校の「海上からの災害時通  
信網の構築をベースとしたアントレプレナー  
シップ育成事業」の中核となる講習会で、商船  
高専OBでもあり、自ら起業された講師を迎え、  
高専生の立場を活用する方法や、イノベーショ  
ン精神の重要性など実践的な講習を実施しま  
した。

#### ○NTT ドコモによる特別講習会を開催

令和6年1月23日（火）にNTT ドコモによる  
特別講習会が開催され、本校電子機械工学科4  
年生36名が参加しました。

講習会では5Gをはじめとする携帯電話シ  
ステムの技術的内容から、本校とドコモで締結  
している災害時包括協定に関連する災害時対  
応について説明があり、さらに1月1日に発生  
した能登半島地震での現場対応を含めた体験  
談などを聞くことができました。

### 3. 地域連携活動、公開講座など

#### ○令和5年度キャリア教育フォーラムの開催

令和5年11月5日（日）に、本校において、  
本科3、4年生及び専攻科1年生を主な対象に  
した「大島商船高専生のためのキャリア教育フ  
ォーラム」を開催しました。学生は合計188名  
が参加しました。

出展者様は本校卒業生の就職先として採用  
実績のある会社のみならず、様々な業界から多  
数のご参加いただいたこともあり、本校の学生  
は同級生や担任教員、進路指導教員らとも相談  
しながら各ブースに伺い、熱心な説明に耳を傾  
けておりました。

#### ○「青少年のための化学の祭典 2023in 岩国」 に出展

令和5年11月25日（土）、岩国市民文化会  
館にて科学イベント「青少年のための科学の祭  
典 2023 in 岩国」に、電子機械工学科 笹岡秀  
紀教授、小林心助教及び本校5年生の学生4名  
が参加し、来場された子供たちに静電気の力を  
体感してもらう科学実験を実施しました。

本実験はまだ一度も実施したことのない内  
容で、本校の教員、学生ともに不慣れな点が  
多々ありましたが、岩国市科学センター職員の  
皆様と、ボランティアの皆様のご協力のお陰で、  
子供たちに大いに楽しんでもらうことができ  
ました。

#### ○小型船「伝馬船7号」を用いて「海洋教育パ イオニアスクールプログラム ～海底地形の 精密探査体験～」を実施

令和5年11月21日（火）に、柳井市立大島  
小学校の6年生6名を対象に、「海洋教育パイ  
オニアスクールプログラム ～海底地形の精密  
探査体験～」を実施しました。このプログラム  
は、公益財団法人「笹川平和財団」他の支援に  
より、海洋環境保全活動を行う周防大島町の市  
民団体「屋代島さとうみネットワーク」が企画  
主体となり、本校と連携して行われています。  
大島小学校からは児童6名と校長先生と担任  
教諭、屋代島さとうみネットワーク代表、本校  
からは実習船の船長と機器の操作職員と全体  
説明を行う教員の3名が参加しました。

今回のプログラムでは、小型船に装備された  
MBES（Multi Beam Echo Sounder：海底地形精



密探査装置)により、船上からの大島漁港周辺の海底地形探査を行いました。この機器は、船が航走しながら、超音波を横方向の扇面上に発信し、その反射波により自船周囲の海底地形の状況を知ることができます。そして、船を航走させることにより、その時々探査結果を船上のパソコンで繋ぎ合わせることで、海底地形図を得ることができます。

○「プログラミングロボット体験講座」の開催  
令和6年2月7日(水)、周防大島町立島中小学校において、出前授業「プログラミングロボット体験講座」を開催しました。この出前授業は、小学5・6年生を対象に、本校の北風裕教教授(情報工学科)、松原貴史准教授(電子機械工学科)、重本昌也講師(情報工学科)、胡拓弥技術専門職員(技術支援センター)が講師になって実施し、ロボットに内蔵された色識別センサーや距離センサーを使ってロボットを制御するプログラミングを体験してもらいました。島中小学校の児童は、とても熱心にプログラムについて学んでいました。

○大島商船高専サイバー犯罪抑止体の活動報告

令和6年3月12日(火)ゆめタウン柳井にて、本校のサイバー犯罪抑止隊に所属する学生4名及び柳井警察署(生活安全課)、並びに、地域の相談員の方が共同で、サイバーセキュリティ月間に合わせてインターネット犯罪に巻き込まれないための啓発活動を行いました。

当日は雨が降り、気温が低い状況でしたが、参加した学生らはサイバー犯罪を未然に防ぐという熱意の元、積極的にチラシ等を配布し、注意を呼び掛けていました。

4. 学校PR活動、クラブ活動の表彰など

○第54回商船祭の開催

令和5年11月3日(金・祝)第54回商船祭

を開催しました。第54回商船祭コンセプトは「大空、大海原へ翔べ」。さまざまな制限から元の生活へ戻りつつある中、4年ぶりの通常開催となり、外部からのお客様の来場も復活し、大空、大海原に向かって翔ぶような賑やかな商船祭を実現することができました。爽やかな秋晴れの中、たくさんの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

○本校の学生がBCN ITジュニアU-16賞2024を受賞

令和6年1月26日(金)に東京国際フォーラムで行われた「BCN ITジュニア賞2024」において、本校のコンピュータ部の学生が「BCN ITジュニアU-16賞2024」を受賞しました。これは、ITジュニア育成交流協会によって全国高校生プロコン、若年者ものづくり競技大会、高校生ものづくり全国大会、全国高等専門学校プロコン、U-22プロコン、全国各地のU-16プロコンの最優秀賞や優勝チームが受賞する賞で、今年度は3団体24人が表彰されました。

○本校専攻科生が起業

本校専攻科学生(当時、電子・情報システム工学専攻2年)が、令和6年1月28日(日)に、きくらげ栽培におけるAI活用技術の開発及びスマート漁業・養殖業技術の開発を事業内容とした新会社、株式会社晴工雨読(せいこうどく)を立ち上げる旨、令和6年1月22日(月)、本校において記者会見を行いました。

この起業は、第3回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト(DCON2022)の受賞結果と第4回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト(DCON2023)の受賞結果を基に起業するものであり、ビジョンとして、「緑の未来、技術の手で-農林水産の革新をAIとともに-」を掲げ、農林水産領域におけるAIによる就労者の負担軽減と売上向上を目指して事業を行うものです。



(商船学科 渡邊 武 記)

<<同窓会だより>>

○鹿児島港寄港 独立行政法人海技教育機構 練習船「海王丸」表敬訪船 (令和6年1月19日)

令和6年1月19日(金)、鹿児島港寄港中の独立行政法人海技教育機構「練習船海王丸(2,556GT)」を堀ノ内会長(N67)・田中理事(E67)・山下理事(N76)・赤崎氏(船舶入港歓迎会)の4名で表敬訪船いたしました。船長室で菊池船長・荒川機関長と親しく懇談でき、また船内をくまなく案内して頂きとても嬉しく感じました。船底の帆の格納場所・作業場所まで案内して頂きました。帰りの際も舷門までお送りして頂きました。海王丸の鹿児島港寄港は、1月17日(水)～1月22日(月)の6日間でした。



○鹿児島港寄港独立行政法人海技教育機構 練習船「大成丸」表敬訪船 (令和6年3月2日)

令和6年3月2日(土)、鹿児島港寄港中の独立行政法人海技教育機構「練習船大成丸(3,990GT)」を堀ノ内会長(N67)・田中理事(E67)・山下理事(N76)・岡辻(E75)・赤崎氏(船舶入港歓迎会)の5名で表敬訪船いたしました。船長室で小屋野船長・有田機関長と親しく懇談でき、また船内をくまなく案内して頂きました。帰りの際も舷門までお送りして頂きました。大成丸の鹿児島港寄港は、2月27日(火)～3月2日(土)の5日間でした。





E75 岡辻、E75 前畠、N76 村尾、N76 山下、E76 橋口（敬称は省略します）

（文責 N67期 堀ノ内 仁）



○令和6年度大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部総会（令和6年3月23日）

令和6年3月23日(土)、鹿児島支部小松会の総会を鹿児島市内で開催いたしました。コロナウイルス感染症の影響で、しばらく総会を開催しておりませんでした。今年は大分落ち着きましたので開催いたしました。11名の会員にご参集いただき、支部会長挨拶・本部同窓会報告・その他の議事を進めた後、懇親会に移りました。

- ・令和5年度鹿児島支部活動報告・・・堀ノ内
- ・大島商船同窓会鹿児島支部ゴルフコンペについて（令和6年4月23日）・・・大迫
- ・その他

また、今回も毎年のことながら多に話が弾み大変楽しい小松会でした。今回は特に、大島商船在学時代の思い出話・航海訓練所練習船の思い出話などを参加者全員が一人ひとり、懐かしくお話して頂きました。来年も元気な姿でお会いできるのを楽しみにしております。

参加者： N67 堀ノ内、E67 田中、N71 大迫、E71 堂園、N72 池上、E73 野口、

# 弓削商船高等専門学校

## 第53回商船祭を開催

令和5年11月3日・4日「第53回商船祭」を開催しました。

今年度は4年ぶりにコロナ禍による制限が無い、通常通りの開催となりました。商船祭実行委員をはじめ多くの方の尽力により、各クラブや個人が運営する各種バザーや展示・発表、1年生による芸術発表会、愛媛県のアイドルグループ「ひめキュンフルーツ缶」によるライブや、実行委員会主催による多くのイベントが両日に渡り開催され、多くの方にご来校いただきました。

幸い両日とも天候に恵まれ、清々しい秋空のもと、盛大かつ無事に開催することができました。



## 第20回全国高等専門学校デザインコンペティション「AMデザイン部門」で優秀賞と審査員特別賞を受賞！

令和5年11月11日～12日の2日間にわたり、舞鶴高専が主管となり第20回全国高等専門学校デザインコンペティション「デザコン2023 in MAIZURU」が開催されました。本校からは、「AMデザイン部門」へ電子機械工学科の5年生中心のチームと4年生中心のチームの2チームが出場しました。「AMデザイン部門」は、3Dプリンタを使って自由な発想と独創的なアイデアを競う部門であり、今年のテーマは”新しい生活様式を豊かにするアイテムの開発”でした。

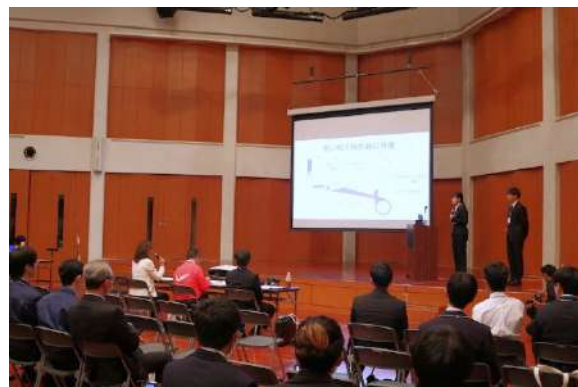
「AMデザイン部門」には全国高専から18チームがエントリーし、予選（書類審査）を通過

した本校の2チームを含む9チームが本選に出場しました。

1日目には口頭発表と質疑応答、2日目はポスターセッションにより審査が実施されました。

本校は、5年生中心のチームが「ディスプレイが持針器」という、救急・災害医療現場で活躍する使い捨ての持針器を考案し、見事「優秀賞」を獲得しました。医療従事者に使用してもらいながら改良を重ねたことが評価されました。

4年生中心のチームは、トップシール包装（容器の天面にフィルムを熱で溶着密閉する包装形態）が急増している世の中において、指先が不自由な人でも簡単にトップシールを開けることができる「トップナー」というものを考案し、見事「審査員特別賞」を受賞しました。



## フルハーネス型安全帯使用作業特別教育を実施

本校地域共同研究推進センターは、弓削商船高等専門学校技術振興会と共催でフルハーネス型安全帯使用作業特別教育を11月26日に実施しました。技術振興会会員企業である四国通建(株)から講師を招いて行い、本校の学生20名が受講しました。

受講生たちは、フルハーネス型安全帯に関する基本的な知識を学んだ後、実技に臨みました。実技では4班に分かれて、実際にフルハーネス型安全帯を装着して使用方法を学びました。

高さ2m以上の作業床を設けることが困難な場所で作業をする場合、この「フルハーネス型安全帯使用作業特別教育」を修了することが労働安全衛生法で義務付けられています。受講生たちは、無事講習を終え、フルハーネス型安全帯の使用に関する知識と技術を習得することができました。



## 令和5年度弓削商船高等専門学校スタートアップ支援講演会を開催

本校起業家工房センターは、令和6年1月9日、令和5年度弓削商船高等専門学校スタートアップ支援講演会を開催しました。

講師に、株式会社日本パブリックリレーションズ研究所代表取締役所長井之上喬氏をお招きし、「グローバル時代に必須となるパブリックリレーションズ」をテーマに講演していただきました。

講演では、パブリックリレーションズの視点に立ち、外部要因による影響を分析していくことが、社会で生き抜くために必要な力になると講義していただき、これから社会で活躍していく受講生にとって大変有意義な話を聞くことができました。



## キャリア教育セミナーを実施

令和5年11月30日、商船学科1～3年生を対象に「キャリア教育セミナー」を実施しました。

本セミナーは全国の商船系高等専門学校が連携して実施している「次世代の海洋人材の育成に関する取組」の一環として実施され、本校へは卒業生でもある株式会社アイエスシー代表取締役 堀内智明氏をお招きし、「海運業界でのブローカーの役割（海事クラスターの一員として）と世界の船員事情」というタイトルにてご講演いただきました。

堀内氏は、ワールドワイドのケミカルタンカーの運航、備船、及び、船舶管理に長年携わ

り、新造船ケミカルタンカーのブローカーコンサルタントとして業界の各分野にて活躍しておられる経験から、ワールドワイドに活躍するための英語やコミュニケーション力、海事クラスターの仕組みや可能性などを、写真や動画を交えながら学生へ熱く伝えられました。

これから進路を検討する学生には、海運界全体の仕組みを学ぶことができる大変貴重な機会となりました。講演終了後には質疑応答の時間があり、多数の学生が質問を行い自分の将来を真剣に考える姿が見られました。



## 第2回 高専 GIRLS SDGs×Technology Contest で『優秀賞』を受賞！

令和6年1月21日に日経ホール（東京都）で開催された、第2回 高専 GIRLS SDGs×Technology Contest（高専 GCON2023）において、電子機械工学科5年の細矢寧々さん、柴崎彩香さん、瀬野舞子さんのチームが、『カスタムメイドディスポ持針器（じしんき）の開発』というテーマで、見事『優秀賞』を受賞しました！

近年、自然災害の頻度や規模が増大する中、災害を経験したことのある柴崎さんと瀬野さん、そして医療機器に興味をもつ細矢さんの3人が手を組み、災害現場で役立つ手術器具の開発を始めました。

災害や緊急事態において、従来の再滅菌が前提とされた手術器具では停電や断水などの状況下で十分な滅菌が難しく、これが交差感染のリスクを高めることを認識し、交差リスクを低減するための手術器具に関する調査を行いました。

その結果、縫合用の手術器具である持針器に

は使い捨ての製品がないことが分かり、交差リスクの低減を目指して使い捨てのプラスチック製持針器の開発に取り組みました。

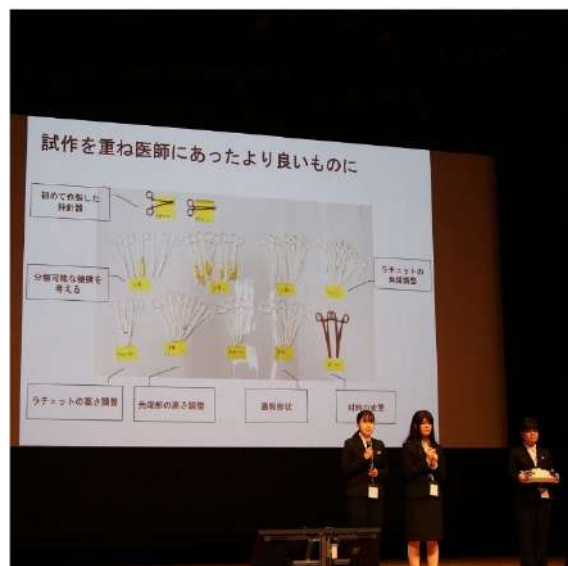
学校での実習や3Dデザイン同好会での活動で磨いてきた3次元設計と3Dプリンタのスキルを活かし、医師の負担を軽減するためにカスタムメイドの持針器を製作しました。

製作した持針器は医師や看護師からのフィードバックを受け、実際の使用感に基づいて改良を重ねました。

現在までに解決しなければならない課題はいくつか残っていますが、ユーザーのフィードバックを積極的に取り入れ、試作を重ねた成果が高く評価されました。

高専 GCON は、全国の国公私立高等専門学校の本科・専攻科に在籍する女子学生を中心としたチームが SDGs の理念を理解し、日頃行っている研究や学習が SDGs の観点からさまざまな社会課題に対してどのように貢献できるか考えることにより、未来の研究者・技術者としての成長を促すことを目的としています。

2023年度は、全国の国公私立高等専門学校から85チームがエントリーし、書類審査と面談審査を経て、12チームが本選出場し、成果を競いました。





### 第29回高専シンポジウムで本校学生が「独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞」を受賞

令和6年1月27日に新潟県長岡市で行われた「第29回高専シンポジウム in Nagaoka」において、情報工学科5年の長畑桜弥さんが「独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞」を受賞しました。

高専シンポジウムとは全国の高専生が集まり、対外的に研究発表と討論を行うイベントであり、口頭発表約200件、ポスター発表約90件が対面やオンラインで行われました。今年度は一次審査を9件が通過し、その中から最高の賞である「国立高等専門学校機構理事長賞」を授与されました。

長畑さんは『離島工学に基づく持続可能な「ひとこねくと」支援事業スマホ教室の取組み』の題目で、自身が取組んだスマホ教室の体験に基づいて、持続可能な仕組みの提案と実践について発表しました会場では他の地域への展開や事業化への推進等について質疑が行われました。



### 令和5年度電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科（生産システム工学専攻）修了式を挙行

令和6年3月9日令和5年度弓削商船高等専門学校電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科（生産システム工学専攻）修了式を挙行し、電子機械工学科卒業生38名、情報工学科卒業生36名及び専攻科（生産システム工学専攻）修了生13名に卒業証書・修了証書が授与されました。

石田校長から「今日、情報技術の進歩は目覚ましく、日本においても、社会全体のDX化やGX化が急務とされ、情報技術を身に付けた人材の育成・確保が求められています。これから、ものづくりの最先端で働く技術者として巣立っていくみなさんは、急速に進む技術革新の最前線に飛び込んでいくわけです。そのために必要な能力は、「変化を的確に捉え、対応できる知力と人間力」、「日本語と英語によるコミュニケーション能力」、そして「多様性を受け入れることのできる広い心」の3つだと思います。是非、人にも物にも、そして地球にも優しい技術者になってください。そして、未来を見据え、自分の進むべき道を見失うことなく、今を大切に生きてください」と式辞が述べられました。また来賓の上村俊之上島町長から祝辞をいただき、卒業生・修了生は引き締まった表情で聞き入っていました。

続いて、在校生総代の情報工学科3年・徳岡桜さんが送辞を述べた後、卒業生総代の電子機械工学科・細矢寧々さんから力強い答辞が述べられました。

多数の来賓、教職員そして保護者の皆様に見守られながら、卒業生・修了生たちは弓削商船高等専門学校での思い出を胸に、それぞれの夢を叶えるための第一歩を力強く踏み出しました。



### 練習船「弓削丸」竣工記念行事を举行

令和6年3月23日、練習船「弓削丸」竣工記念行事を举行しました。記念行事には、盛山正仁文部科学大臣、山本順三参議院議員、赤池誠章参議院議員、梶原大介参議院議員、上村俊之上島町長をはじめ多数の来賓に出席いただき、本校関係者ら約160名が出席しました。

記念式典では、まず石田邦光校長が「本校の練習船は、海洋立国を支える海事人材の育成と災害支援に活躍できる練習船として期待をされております。本日竣工を迎えました弓削丸は、船舶と学校を結ぶ最新の船陸間通信装置、ダイバーシティに配慮した設備、災害時の支援を可能にする設備等を有しておりますので、これらの優れた機能を活かし、皆様からのご期待に応えたと共に、今まで以上に優れた海事人材の育成、災害対応、地域貢献に邁進する所存でございます」と式辞を述べた後、盛山大臣、赤池議員、梶原議員から祝辞をいただき、最後に谷口功高専機構理事長から謝辞が述べられました。

式典後には、来賓各位によるテープカットが行われ、その後、「弓削丸」の機能や設備を紹介する内覧会が行われました。

内覧会後には福山（広島県）へ移動し、記念祝賀会が行われ、「弓削丸」の竣工を祝う盛大な記念行事となりました。

（練習船弓削丸 森瑛太郎 記）



# 海技教育機構

## ○乗船実習

陸上では新型コロナ対応が5類になり、アフターコロナという言葉をよく聞くようになりました。しかしながら練習船においては、狭い船内において一度罹患者が発生した場合には、感染拡大を抑えることは容易ではありません。実習生・乗組員一人ひとりが健康管理と感染症対策に取り組みながら、実習訓練航海を続けています。

令和5年10月から令和6年2月までの5ヶ月間、5校すべての航海科4年生は日本丸に、同じく機関科4年生は銀河丸に乗船し、実習を行いました。日本丸では4年ぶりに外国(シンガポール)寄港を伴う遠洋航海実習が実施されました。出航の際には、実習生のご家族をはじめ、多くの方々から見送りをいただきました。銀河丸は、国内での訓練航海を実施しました。昨年10月から5ヶ月に渡る訓練では、これまでに習得してきた知識及び技術を“知っている”から“実行できる”を目指し、日々の訓練に取り組みました。航海科も機関科も長期航海実習で一回り大きく成長してくれたと思います。

また、3月1日から3月31日までの間に3年生を対象に1か月間の短期実習を行いました。初めての大型練習船での実習でしたが、船の生活には慣れることができました。練習船での経験を学校での座学等に活かしてほしいと思います。4年生の長期実習では元気に乗船してくれることを楽しみにしています。



銀河丸機関室（高専4年生）



銀河丸下船式



銀河丸船橋（高専短期）

(土) から5日(日)に行われた「2023長崎帆船まつり」に参加しました。一般公開では、3,372名の方々が乗船されました。



銀河丸船尾 (高専短期)



海王丸長崎帆船まつり



銀河丸機関室 (高専短期)

<北九州港開港記念イベント>

練習船「海王丸」は福岡県北九州市からの招待を受け、11月16日(木)から11月21日(火)の間、北九州港(門司1号岸壁)に寄港し11月18日(土)、19日(日)に行われた市制60周年記念北九州港開港記念イベント「船舶大集合!」に参加しました。

両日に渡りデッキ上の一般公開を行い、2,885名の方々が乗船されました。また、北九州市内の親子40名を対象としたシップスクールの実施、船員養成校と練習船を紹介するイベントセミナーの開催、海事関係者等制服ファッションショーへの参加を通し、海事思想の普及活動を行いました。



日本丸機関室 (高専短期)



海王丸門司一般公開

○練習船寄港地イベント

<長崎帆船まつり>

練習船「海王丸」は長崎帆船まつり実行委員会からの招待を受け、11月2日(木)から11月7日(火)の間、長崎港に寄港し11月4日

<名古屋港一般公開イベント>

練習船「日本丸」は名古屋港管理組合からの寄港要請を受け、11月24日(金)から11月28日

(火)の間、名古屋港ガーデン埠頭に寄港しました。

寄港中の11月25日(土)、26日(日)には、デッキ上の一般公開を行い、3,003名の方にご乗船頂き、帆船の設備や実習設備についてご見学頂きました。デッキ上では日本丸実習生が海図や甲板機器の解説を行い、船員になるための実習について紹介しました。また、26日(日)には中日海洋少年団の皆さんにご見学頂きました。



日本丸名古屋一般公開

JMETSでは、引き続き地方自治体・関係団体との連携を図り、海や船の魅力を広く国民に普及してまいります。

<令和6年4月から6月までの乗船実習予定>

#### ○日本丸

- ・海上技術学校 4年

4/1 乗船、4/4 神戸発、4/11~4/15 東京、4/22~4/26 大阪、5/7~5/11 門司、5/17~5/21 広島、5/28~6/1 神戸、6/7 東京着、6/10 下船

#### ○海王丸

- ・大学(航海・機関) 5年
- ・海技大学校専攻(航海・機関) 2年
- ・高等専門学校(機関) 6年

4/1 乗船、4/4 東京発、4/15~4/20 神戸、4/20 神戸発(遠洋航海)、5/15~5/20 シンガポール、6/5 東京着、6/10 下船

#### ○大成丸

- ・高等専門学校(航海) 6年
- ・海上技術短期大学校(波方) 2年

4/1 乗船、4/5 神戸発、4/12~4/16 東京、4/26~4/30 神戸、5/7~5/11 細島、5/18~5/22 小松島、5/28~6/1 清水、6/8 東京着、6/10 下船

#### ○銀河丸

- ・海上技術短期大学校(清水・宮古) 2年

4/1 乗船、4/5 東京発、4/13~4/17 清水、4/22~4/27 神戸、5/2~5/7 高松、5/13~5/17 細島、5/24~5/29 小松島、6/7 東京着、6/10 下船

#### ○青雲丸

- ・高等専門学校(航海・機関) 6年

4/1 乗船、4/4 東京発、4/12~4/16 神戸、4/23~4/27 門司、5/9~5/13 長崎、5/24~5/28 広島、6/7 東京着、6/10 下船

今後ともJMETSへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 練習船若潮丸を活用し、1月27日(土) に七尾市へ支援物資を輸送しました

独立行政法人国立高等専門学校機構 富山高等専門学校



独立行政法人国立高等専門学校機構プレスリリース【富山高専】練習船若潮丸を活用し、1月27日(土)に七尾市へ支援物資を輸送しました。掲載された記事を、富山高等専門学校総務課の転載許諾をいただきましたので、紹介します。

富山高等専門学校（富山県富山市・射水市 校長：國枝 佳明 以下「富山高専」）は、令和6年能登半島地震で被災し、今も断水が続く石川県七尾市に、富山高専の練習船若潮丸を活用して、支援物資の飲料水を輸送しました。

## ◆ 本活動について

1月27日（土）に、令和6年能登半島地震で被災し今も断水が続く七尾市に、富山高専の練習船若潮丸を活用して、支援物資

の飲料水約5トンを届けました。若潮丸は、日の出前の早朝に基地を出航し、七尾港矢田第一埠頭に船首が一部はみ出した状態で着岸した後、飲料水400ケースを地震で被害の跡が痛ましい岸壁に降ろしました。その後、陸路から駆け付けた富山高専教職員の手で矢田郷地区コミュニティセンターに何度も往復して届けました。なお、この飲料水については、災害支援を目的として校内の教職員から支援金を募り、購入したものととなります。

また、今回の支援物資の提供に当たっては、富山高専共同研究先企業である日本システムケア（株）様からも計画にご賛同いただき、ご協力いただきました。

今回の支援物資の輸送に先立ち、1月26日（金）に行った練習船若潮丸への積込に

は、商船学科の有志の学生も協力しました。



七尾港へ向かう若潮丸



七尾市の避難所へ飲料水を届ける様子



積込作業に協力する商戦学科学生

#### ◆ 練習船若潮丸について

富山高等専門学校が有する練習船若潮丸は、商船学科の学生の養成や他機関との共同研究に加え、災害支援にも活用することを想定しております。特に、今回のような半島での大規模災害発生時には、海上輸送が有効とされております。

#### ◆ 富山高等専門学校について

富山高等専門学校は、平成 21 年 10 月に国立高等専門学校の高度化再編により、富山工業高等専門学校と富山商船高等専門学校が統合して創立されました。

本校は、工学系 4 学科（機械システム工学科、電気制御システム工学科、物質科学工学科、電子情報工学科）、人文社会系 1 学科（国

際ビジネス学科）、商船系 1 学科（商船学科）の 6 学科の本科、および専攻科からなっており、世界で活躍する技術者、ビジネスパーソン、そして海事技術者を育成しています。また、科学技術・海洋に関連する高度な研究を行っている国内有数の高等教育研究機関です。

#### 【学校概要】

学校名：独立行政法人国立高等専門学校機構  
富山高等専門学校

所在地：富山県富山市本郷町 13 番地

富山県射水市海老江練合 1 番 2

校長：國枝 佳明

設立：平成 21 年 10 月

URL：<https://www.nc-toyama.ac.jp/>

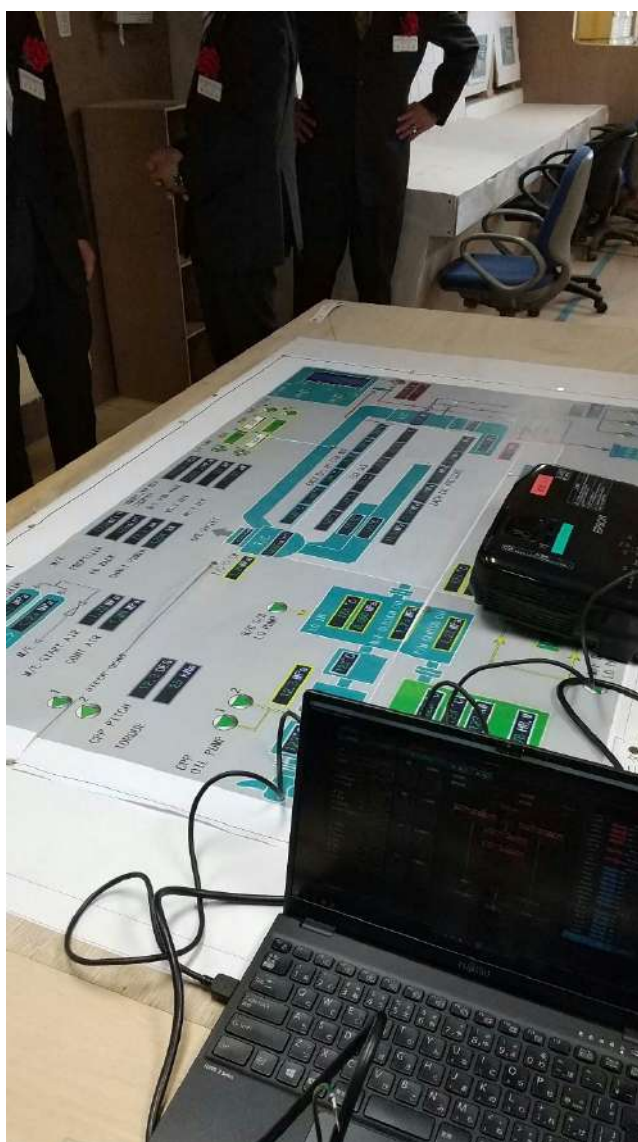
事業内容：高等専門学校・高等教育機関

# 鳥羽丸起工式









### ○ 練習船鳥羽丸代船起工式が挙行されました

令和5年12月8日（金）、三菱重工マタイムシステムズ株式会社（岡山県玉野市）において、練習船鳥羽丸代船起工式が挙行され、本校教職員、同窓会長、商船系高専校長および全日本船舶職員協会会長ら21名が出席しました。

同船は令和6年10月に進水し、令和7年3月に引き渡される予定です。

参議院議員(比例代表 全国区)

# 赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



# 27

## 学校との連携強化を推進! 全国の人材育成推進協議会を活用!

「国づくり、地域づくりは、人づくりから」を信条に、そして「日々勉強! 結果に責任!」をモットーとして、活動を展開している参議院議員(比例代表全国区)赤池まさあきです。

### ◎海洋教育の推進を

三月十八日、参議院議員会館会議室で、私が座長を務める海洋教育推進プロジェクトの第二十七回会合を開催しました。加藤信一全船協専務理事にもご出席頂き感謝申し上げます。本会合は平成二十八年(二〇一六年)、私の呼びかけに関係者の皆様から賛同を頂く形で、産学連携組織として始まりました。その年の七月「海の日」には、

安倍総理(当時)から「二〇二五年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指す」との宣言が出され、翌、平成二十九年(二〇一七年)には、長年、海事団体から強くご要望を頂いていた学習指導要領への記載をめくり、皆様とともに活動強化して取り組んだ結果、見直しを勝ち取り、小中高の教科書における海洋関係の記述拡充に繋がりました。

一方、各地の教育委員会との意見交換も重ねてきており、今回の会合では、小中学校のみならず、高校段階での海洋教育推進に向け、全国にある海事産業次世代人材育成推進協議会を活用して、各地の中学校の職場体験や高校との連携を強化することも議論しました。今後各地で具体的に推進していきたいと思っています。

来る六月十五日には、山形県酒田市において、次回第二十八回海洋教育推進プロジェクトを開催する予定です。県教委・市教委と海事諸団体の意見交換を実施し、海洋教育を推進していきたいと思っております。



なお、国や海事団体が作成している海洋関係資料類を海事文庫としてまとめ、学校に提供することも予定しています。

(右図は文科省作成資料)

### ◎造船・船用業人材確保

二月十五日、自民党本部の国土交通部会にて、造船・船用工業団体等から働き手不足についての聞き取りが行われました。

出席した造船・船用工業団体からは、地域経済の発展、国の安全保障、経済安全保障にも貢献している重要な産業でありながら、人材確保が喫緊の課題となっているとのことでした。造船業が盛んな地域でも、有効求



赤池誠章(あかいけまさあき) 昭和三十六年山梨県生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成の専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文部科学委員長、自民党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣等を務め、現在、党政務調査会副会長(国土交通・内閣担当)、海事振興連盟常任幹事、海洋立国推進議連事務局長、海洋教育推進プロジェクト座長。参議院議員二期目。

### 《国会事務所》

〒100-8962  
東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館524号  
TEL: 03-6550-0524  
FAX: 03-6551-0524  
HP: <https://www.akaike.com>

### 【自由民主党 党員募集】

自民党では党員を募集しています。詳細は事務所まで!

参議院議員(比例代表 全国区)

# 赤池まさあき

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強!  
結果に責任!

人倍率が高く、全国平均を  
超えており、人手不足が深  
刻だということでした。

造船業全体の就労人口は、  
約七万三千人で、約九千人  
十二%が外国人材であり、  
現場の技能者でみると十  
五%となっているとのこと  
で、外国人材の活用について  
も要望がありました。

この要望も踏まえ、先述の  
海洋教育推進プロジェクトで  
は中学校や高校段階での連  
携強化を議論した所です。

### ◎商船高専の練習船更新

三月二十三日、愛媛県上  
島町にある国立弓削商船高  
専の四代目練習船「弓削丸」  
の竣工式典が開催され、私  
も出席しました。弓削丸の  
更新は、六年前の平成三十



年(二〇一八年)に私が同校

を視察したことを契機に、  
酒迎和成全船協会長(当時)  
と商船高専卒業生の団体等  
から、現行の五校体制と定  
員維持や、老朽化した練習  
船の更新等の要望を頂いた  
ことからはじまります。

### 翌、令和元年(二〇一九年)

十月、富山高専の練習船若  
潮丸の老朽化度合いを視察  
して確認し、十一月に自民  
党本部で商船高専五校と立  
地自治体の関係者にお集り  
頂き、教育環境の整備と防  
災拠点ともなる練習船更新  
の決議を行い、その後、政府  
に要請活動を行いました。

その甲斐あって、政府にお  
いて、商船高専五校の老齡  
順に計画的な練習船更新が  
決定されるに至りました。

新練習船は、学校の要望を  
十分聞き取り、船体を倍の  
大きさとし、最新の機器を  
導入して教育環境を整え、  
また、女性高専生増大に配  
慮した船室の配置や、防災  
拠点となるよう基本設計が  
共通化されました。

そのための予算も獲得し、  
昨年は、大島商船高専の大  
島丸が更新されました。そ  
して、今回の弓削丸の更新に  
繋がったわけです。

今後、鳥羽商船高専の鳥羽

丸、富山高専の若潮丸、広島  
商船高専の広島丸の更新に  
向け、引き続き力を尽くし  
てまいります。

### ◎令和六年度税制改正

昨年末の自民党税制調査  
会において、次のような改正  
を決定しました。

①国際船舶登録免許税と  
固定資産税の特例措置の拡  
充・延長、②軽油引取税の税  
制支援の延長等。

### ◎海事関係予算の概要

三月末、令和六年度予算  
百十三兆円が成立しまし  
た。国土交通省海事局関連  
予算は八十三億円ですが、  
前年度補正予算と合わせて  
百十七億円(一・四倍)です。  
内訳は以下です。

#### 1. 安定的な海上輸送の確

保に向けた我が国海事産業  
の競争力強化に向けて、(1)海  
事産業強化法を踏まえた国  
際競争力強化・生産性向上  
のため、①海事産業の連携  
による強い内航海運の実現、

②内航海運業の取引環境改  
善・生産性向上に向けた取  
組、③バーチャル・エンジニア  
リングによる船舶産業の省  
人化・効率化、④船舶関連機  
器の供給網強化事業、⑤

自動運航船の実用化に向け  
た環境整備、⑥官公庁船分  
野の海外展開に向けた環境

整備の高度化。(2)海事分野  
の脱炭素化推進のため、①  
ガス燃料船の競争力強化、

②脱炭素燃料のバンカリン  
グガイドラインの策定に向  
けた調査、③GHG削減に向  
けた国際戦略の推進、④内

航脱炭素化実現に向けた環  
境整備、⑤浮体式洋上風力  
発電施設の導入拡大・海外  
市場獲得に向けた環境整

備。(3)海事人材の確保・育成  
のため、①独法(海技教育機  
構)経費、②船員の確保・育成  
体制の強化、③造船業にお  
ける人材の確保・育成。

2. 海上安全対策等の推進  
として、(1)旅客船事業者等へ  
の検査・監査体制の強化、(2)  
マラッカ・シンガポール海峡  
等航行安全対策。

3. 海事振興として、(1)海  
洋教育推進事業、(2)海洋・海  
事への関心と理解促進に向  
けた取り組み。

4. その他、関連事業が十  
二点あります。

今後も海洋国家「日本」の  
海事振興に全力を尽くして  
まいります。何卒ご指導の  
程お願い申し上げます。

(赤池まさあき)

その他、国政報告  
はこちらをご覧ください。



## 第51回戦没・殉職船員追悼式ご案内

第51回戦没・殉職船員追悼式を下記の通り挙行いたします。多くの皆様の参列をお願い申し上げます。

式典は、11時開式・国歌斉唱・黙祷・式辞・参列者献花・能楽「海霊」奉納の順に進行し12時に閉式。散会の予定です。

お問い合わせは日本殉職船員顕彰会へご連絡ください。

### 記

日 時 令和6年(2024)年5月15日(水) 午前11時開式  
\*晴雨に関わらず受付は午前9時に開始します。

場 所 神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」(横須賀市)

交 通 ① 京急浦賀駅から観音崎行き京浜急行バス(所要約15分)  
② JR横須賀駅から観音崎行き京浜急行バス(所要約30分)  
\*①②ともに『観音崎』バス停下車  
③ 『観音崎』バス停から式典会場まで無料マイクロバス送迎  
\*乗用車による式場乗入れはできません。  
午前9時から11時10分まで観音崎バス停から式場の『戦没船員の碑』  
まで無料マイクロバスを運行します。  
\*JR東京駅から観音崎バス停までの所要時間は約1時間30分です。

以上

※式典には、全国の遺族、関係者の参列をいただいています。ご案内状の発送は4月上旬を予定しておりますが、ご案内を差し上げない方々も自由に参列できます。

※式典会場は屋外となります。近年の温暖化の影響で晴天の場合は気温が高くなることが予想されます。暑さ対策として、帽子・日傘・水等をご用意ください。

※式典は雨天でも行いますので、雨具の用意をお願いします。

※開式前に海上自衛隊横須賀音楽隊の前奏があります。

(雨天の場合、前奏は変更になることがあります。)

※式典終了のころ(概ね午後12時から午後1時まで)式典会場の戦没船員の碑から「観音崎」バス停および京急「馬堀海岸駅」まで無料マイクロバスを運行します。

※本年は、会場の都合により懇親会は行いません。

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地 海事センタービル  
公益財団法人 日本殉職船員顕彰会  
電 話 03-3234-0662  
F A X 03-3234-0682  
E-mail : kenshoukai@isis.ocn.ne.jp



雷撃により横立ちとなって沈没する「ぶら志丸」

第50回 知られざる民間船舶の悲劇  
戦時徴用船遭難の記録画展  
— 大久保一郎画伯遺作 —

入場無料

令和6年8月17日(土)～8月26日(月)

午前10時～午後6時

【初日：午後1時開場 最終日：午後4時閉場】

会場 所沢市民文化センター ミュース  
2階 ザ・スクエア 展示室  
埼玉県所沢市並木1-9-1

主催 公益財団法人日本殉職船員顕彰会  
東京都千代田区麹町四丁目5番地 TEL 03-3234-0662

交通 西武新宿線・航空公園駅東口から  
徒歩約10分  
バス約3分

(並木通り回地行またはエステシティ所沢行「文化センターミュージズ」下車)



## “練習船日本丸” 実習生激励訪船 in Singapore

全日本船舶職員協会 事務局

本年1月16日(火)に(一社)海洋会横浜支部(飯田敏夫 支部長)主催による「新年会」が4年ぶりに開催され、当会 広重康成会長も来賓としてお招きを受け出席しました。

その場で(独)海技教育機構 田島哲明理事長から個別にお話がありました。

帆船日本丸が1月6日神戸港からシンガポールに向け練習航海に出たこと。19日にシンガポール入港予定であり海洋会のシンガポール支部は表敬訪問の予定が既に決まっている。しかし、今回の遠洋航海は商船系高専生が乗船しているので、全船協のシンガポール支部はありますか、あれば実習生を激励して頂き、本船の船機長も支部への表敬訪問させて頂きたい、とのこと。

しかし、残念ながら、全船協にはシンガポール支部はありません。そこで事務局に『至急シンガポール在住の全船協会員に周知の上、是非とも帆船日本丸への表敬訪問をお願いしたい』との通知です。

早速全理事に声をかけます。あまりにも急な話で満足な対応ができるか不安がよぎりますが、まずは行動を！

柏木 実理事(弓削商船同窓会長)が同窓生の(株)アイシーエス堀内智明社長に相談、内外に顔の広い堀内さん、シンガポールの同窓生へ話をつないでいただきました。おかげ様でどんどん拍子に話は進み、現地の代理店や着岸場所本船の入港スケジュール、訪船日時など詳細を知らせてほしいと矢継ぎ早に問い合わせが殺到することとなりました。

1月17日(水)にはシンガポール在住の村上豊さん(星港弓削商船同窓幹事)からメールも届きます。村上さんと、海技教育機構の担当者と直接連絡していただくこととなりました。

田島理事長のお声掛けを頂き、星港に於ける商船高専OBの表敬訪問が実現できました。

お忙しい中、ご協力頂きました全ての皆様、



シンガポール寄港中の日本丸

シンガポール港で日本丸に訪船していただいた村上豊さんから報告が届きましたので、ご紹介いたします。

2024年1月20日 雨季のシンガポール港 Singapore Cruise Center に停泊中の独立行政法人 海技教育機構の大型帆船日本丸にシンガポール駐在同窓生5名で、乗船中の実習生へ激励のため訪船しました。

当日は生憎前日から降り続いた雨が止むことなく、岸壁も日本丸ご自慢のチーク材が張り巡らされた甲板も雨に打たれるコンディションの中、同窓生一同は日本丸が着棧している岸壁に向かう前から、年甲斐もなく高揚感で口数も多くなり、客船ターミナルから舷梯まで同窓である熊谷次席一等航海士がエスコートのもと、舷梯では藤江晋平船長をはじめ、士官の

方々が出迎えてくださりました。

乗船後船内客室に通され、船長より昨今の日本丸のおかれる状況での訓練や教育の取組、今航海の予定など説明をいただきました。

数年前の日本丸で発生した実習生の転落事故を受け、いまだ帆走作業や登檣礼といった帆船ならではの作業・訓練が再開されていないということに心が痛みました。そのため、現在では士官や部員の技術継承のために **Fore Mast** に取り付けられた2枚のセール以外は取り外され、今航シンガポールにも機走のみの航海とのことでした。



赤尾良一氏による実習生へ激励講話

その後、船内教室で待機された実習生と面会し、弓削商船同窓生を代表し航海科67期（高専2期）赤尾良一氏自身が数十年前旧日本丸に乗船し初めて外洋に出た際に台風と直面した話、日本・シンガポールの海運界としての役割、練習船での貴重な経験をお話しされる姿を実習生は皆背筋を伸ばし、食い入るように聞いていました。

最後に、努力は必ず報われるという実習生のみならず、我々も気が引き締まる激励の言葉をいただきました。

今回訪船した際には甲板をヤシの実で擦ったタンツーやロープを力の限り引っ張ったあの日のことが、つい昨日のこのように甦ってきました。実習生に激励を送るための訪船でしたが、訪船した我々が実習生の生き生きとしたあの眼差しに、そして何より若かりし頃の思い出がビッシリと詰まった日本丸に勇気をもら

った訪船となりました。

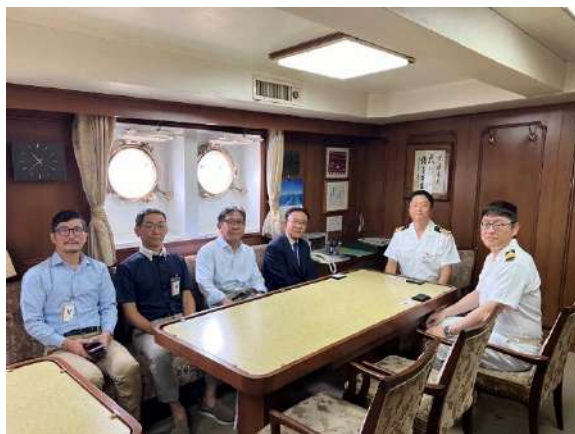
今回の訪船にあたりご対応いただいた日本丸船長はじめ乗組員の皆様、一般社団法人 全日本船舶職員協会様、海技教育機構 JMETS の皆様ならびに同窓生諸先輩方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

星港弓削商船同窓一同

### 【日本丸遠洋航海 概要】

実習生：

- 富山高等専門学校 20名（7名）、
  - 鳥羽商船高等専門学校 22名（4名）、
  - 大島商船高等専門学校 17名（1名）、
  - 広島商船高等専門学校 20名（6名）、
  - 弓削商船高等専門学校 20名（1名）
- ※（ ）は、女子実習生の内数



写真右から 杉本文太機関長、藤江晋平船長、赤尾良一氏、倉本博史氏、天間史明氏、村上豊氏



実習生との集合写真



写真右から 天間史明氏、赤尾良一氏、倉本博史氏、熊谷次席一等航海士、村上豊氏、金子大輔氏

◎ 今回訪船していただきました弓削商船高専卒業生の方々を紹介いたします。

赤尾良一氏 高専2期  
CHEMPIONEER TANKERS PRIVATE LIMITED

倉本博史氏 高専18期  
WIN (ウェザーニューズ・シンガポール支社)

天間史明氏 高専23期  
BLUE WAKE SHIPPING PTE. LTD.

金子大輔氏 高専31期  
MOL Ship Management (Singapore) Pte. Ltd.

村上 豊氏 高専32期  
GOODWILL MARITIME PTE. LTD.



写真右から 村上豊氏、赤尾良一氏、倉本博史氏、熊谷次席一等航海士、天間史明氏、金子大輔氏



## 本部・支部だより

- 2023/12/0 鳥羽商船高等専門学校の練習船鳥羽丸の代替船「鳥羽丸」の起工式が三菱重工業玉野工場で行われ、広重康成会長出席。
- 2023/12/19 (独)海技教育機構 練習船日本丸 藤江晋平船長・杉本文太機関長来会。練習船日本丸が令和6年1月6日神戸港からシンガポール向け遠洋航海に出港する。日本丸が外国へ遠洋航海を行うのはコロナ禍で中断されてから4年ぶり。実習生は商船系高専5校の学生99名
- 2023/12/19 衛藤征士郎先生 Early Bird Seminar (広重)
- 2024/01/16 海洋会横浜支部新年会 横浜波止場会館にて (広重)
- 2024/01/25 5商船系高専校長との懇談会開催 (國枝佳明校長・和泉 充校長・河口信義校長・古莊雅生校長・石田邦光校長・広重康成・加藤信一・酒迎和成・飯島 寿) 於・千代田区民ひまわり館
- 2024/01/26 国立高等専門学校における次世代の海洋人材育成に関する協議会が学術総合センターにて開催され、活動報告・活動計画について意見交換が行われた (広重康成)
- 2024/01/29 クラウドファンディングを活用した帆船日本丸維持修繕プロジェクト(船尾フード修繕工事費)について寄附いたしました。
- 2024/02/08 令和5年度 次世代の海洋人材の育成に関する事業「海事・海洋分野の人材育成事業の実施」第2回運営委員会(一橋講堂特別会議室)加藤専務理事
- 2024/02/13 鳥羽商船高等専門学校の新練習船の紹介記事のご案内。
- 2024/02/13 2023年11月11日日本経済新聞・中部地域経済に掲載されました。
- 2024/03/01 海技教育財団理事会 海運ビルにて (広重)
- 2024/03/06 栗林商船(株) 会長 栗林定友氏お別れの会 (広重)
- 2024/03/07 日本殉職船員顕彰会第48回通常理事会 (広重・加藤)
- 2024/03/14 日本海難防止協会 令和5年度第2回通常理事会および令和5年度第2回社員総会(臨時) (広重)

# 賛助会員名簿

2024年4月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。(一社)全日本船舶職員協会

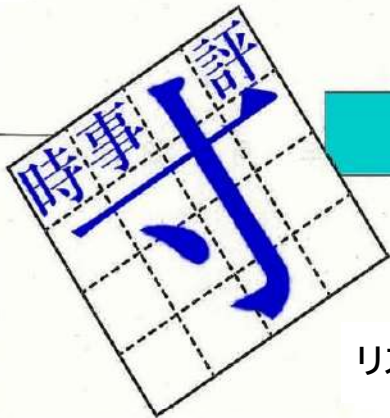
## 賛助会員名簿 2024年4月現在

広島商船校友会	有限会社システムエンジニアリング
弓削商船高専同窓会	日本ガスライン株式会社
北斗会事務局	名阪船舶株式会社
大島商船高専同窓会	戸田汽船株式会社
鳥羽商船同窓会	株式会社商船三井内航
株式会社コトラスシステム	菅原汽船株式会社
北星海運株式会社	神戸マリーナ工業株式会社
山友汽船株式会社	株式会社マリントランスシステム
株式会社B&Sエンタープライズ	正栄汽船株式会社
栗林商船株式会社	かもめプロペラ株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	東興海運株式会社
八馬汽船株式会社	鹿児島船舶株式会社
大四マリン株式会社	摂予汽船株式会社
NSユナイテッド内航海運株式会社	株式会社NMDグループ
太洋産業貿易株式会社	ダイハツディーゼル株式会社
旭運輸株式会社	三陸運輸株式会社
上野トランステック株式会社	兵機海運株式会社
株式会社 ウシオ	協同商船株式会社
日本栄船株式会社	日本油化工業株式会社
宮城マリンサービス株式会社	株式会社アイエスシー
株式会社ハマテクノサービス	株式会社ボルテック

## 2023 年度会費納入者芳名帳

2023 年 12 月 12 日～2024 年 4 月 15 日現在

<b>1 2 月</b>	長尾 徹也	二川 英樹	商船三井さんふ
個人入金	友光 雄太	滝口 智	らわあ
富永 信行	横田 守弘	遠藤 将実	富山 幸弥
野場 修治	山本 将吾	高橋 恵	薄井 雄基
高岡 俊輔	石田 宗久	高村 颯介	廣瀬 潤一
内海 真吾	楠本 竜也	玉井商船	清水 洋平
田中 健一	鬼頭 和江	清崎 哲也	前田 龍弥
畑 辰幸	白石 真純	石川 祐二	<b>4 月</b>
山田 剛史	千葉 優太	<b>2 月</b>	個人入金
寺川 明範	金子 海里	個人入金	坂本 凜藤
山本 和之	末永 智之	城戸 裕晶	中沢 陽光
木村 公太郎	野田 恭平	濱本 直弥	前田 安紀
高野 功	浪切 聡史	秋元 圭	
川崎汽船	宮田 涼一	川越 義人	
中村 敦也	吉永 友安	山本 麻鈴	
阿部 昭敬	北井 君弥	山田 康喜	
足立 吉久	藤島 卓弥	松村 茂実	
廣瀬 憲博	續石 波輝	内野 光博	
岡本 龍太	MOオーシャンエ	<b>3 月</b>	
西川 信紀	キスパート	個人入金	
藤澤 直樹	阿部 大二郎	渡辺 優作	
村松 賢一	<b>1 月</b>	長谷川 雅俊	
冨田 稔	個人入金	藤村 昂大	
大澤 博次	斉藤 勉	本木 久也	
川本康一郎	東方田 祐康	宮前 俊彦	
小山 陽平	藤中 満	坂本 拓真	
山下 裕規	長谷川 徹	水野 博之	
西岡 圭志	中尾 登一	花堂 太気	
加藤 健真	林 和佳奈	田中 恭平	
長沼 竜二	三輪 史郎	由良 和久	



## リスキリング

最近よく聞く言葉としてリスキリングがあります。

英語では「Reskilling」と記され「Re」+「Skilling」の二語に分割でき、Re は「再び」Skilling は「スキルを磨く」このように日本語訳で「学び直し」と解釈すれば分かりやすいです。「学び直し」が指すのは「既存の業務から離れ、新たな業務に就業する際、すぐ適応できるように必要なスキルを獲得しておくこと」です。最近の人気のスキルとしては次の4つがあります。プログラミング・データ分析・コミュニケーション・英会話  
プログラミングコンピューターの動きの基盤となる

プログラムを作るプログラミング企業内でもデジタル技術が多く活用され、そのシステム管理を担うことができるプログラマーには高いニーズが集まっています。データ分析データ分析とは、蓄積された膨大なデータを、適切な方法を用いて分析する作業のことです。アクセスデータや購買データといったデータ群を分析できると、マーケティング戦略の立案・策定などにも役立てられるため、とても重宝されているスキルですコミュニケーションコロナ禍でテレワークの導入が進んだことで、オンラインコミュニケーションの機会が増え、対人関係の要となる高いコミュニケーションスキルがより求められるようになりました。英会話グローバル化が進むなか、英会話の重要性はとて高まっています。英語が話せれば、海外赴任という新たな道も開け、グローバルなキャリアアップを望めます。

### 表紙写真 弓削商船高等専門学校 練習船「弓削丸」

本船主要目 長さ(全長) 56.33m 長さ(垂線間長) 49.80m 幅(型) 10.60m 深さ(型)(上甲板) 5.80m 深さ(型)(第二甲板) 3.50m 計画満載喫水(型) 3.40m 総トン数 380 トン 主機関 4 サイクルディーゼル機関×1台 連続最大出力 1,471kW×900min-1 推進電動機 定格出力 360kW×885min-1

### 編集後記

航空機製造メーカー、エアバス社とボーイング社の意外な違い、航空機製造において異なる思想を持っています。こちらの2大メーカーの設計思想をご紹介します。まずエアバス社は、信頼性と機械重視の思想を持っています。人間はミスを犯す存在であると考えており、最終的に信じられるのは機械であるとしています。機械に頼れば事故を防げるとの立場です。エアバス社の象徴的な機体は、オール二階建てのA380で、ボーイング社のジャンボジェットに対抗するために製作されました。対するボーイング社は、人間と技術の協力の思想を採用しています。人間が操縦する際、機械はあくまでも人間を補助するものであり、最終的には人間の技術によって事故を防ぐべきだと考えています。ボーイング社の象徴的な機体は、ジャンボジェットの愛称がついているB747です。また、第二次世界大戦中に日本に多く飛来していた「B29」もボーイング社製です。両社の主張は興味深く、航空業界において競争だけでなく、機械対人間という観点でも対立しています。皆さんはどちらの思想に共感しますか？また、エアバス社とボーイング社は操縦桿のデザインにも違いがあります。エアバス社はサイドスティックを、ボーイング社は操縦桿を採用しています。日本の大手航空会社では、ボーイング社製の機体が圧倒的に多いですが、近年エアバス社の航空機も採用され始めています。エアバス社の同一ライセンスによる効率的な運用がその理由です。

自動運航船はどちらの思想を採用するのでしょうか。機械と人間の融和は如何に！どちらにしてもシステムを扱う人間への教育はより重要になっています。(飯島・記)

全船協 会報 155号 春季号

2024年5月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：加藤 信一  
本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室  
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: [honbu@zensenkyo.com](mailto:honbu@zensenkyo.com) URL: <https://www.zensenkyo.com>

神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内  
TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520

E-mail: [kobe@zensenkyo.com](mailto:kobe@zensenkyo.com)



Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル  
(代表・総務部) TEL(045) 650-3180 FAX (045) 663-4811  
(オペレーション部) TEL(045) 681-4081 FAX (045) 681-4090  
TEL(045) 681-4091  
URL : <http://www.tokyobay-pilot.jp>

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13  
日本橋鮎佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975  
FAX (03) 3245-6980  
E-mail: [cotrasystem@nifty.com](mailto:cotrasystem@nifty.com)



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 末岡 民行

〒650-0034  
神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階  
電話 (078)332-7191 FAX(078) 391-7157  
E-MAIL [info@inlandsea-pilots.jp](mailto:info@inlandsea-pilots.jp)

関門水先区水先人会

会長 前原 武人

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号  
電話 (093) 332-2384(代)

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の  
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K 2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14  
パークノヴァ横浜・老番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916  
E-mail : [kani@ksh.biglobe.ne.jp](mailto:kani@ksh.biglobe.ne.jp)



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

<http://www.meihansenpaku.co.jp>



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号  
セントラルビル2階 (fabbit内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290



伊勢三河湾水先区水先人会

“安全と信頼を提供”

会長 高尾 幸徳

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号  
名港ビルディング 17階

電話 : (052)304-8311 FAX : (052)304-8312

宿泊設備 (海員会館) のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



1階 レストラン  
Ocean

※写真はイメージです。

ナビオス横浜



3階 バーラウンジ  
Seamen's Club



ナビオス横浜  
International Seamen's Club & Inn  
TEL : (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL : (044) 233-5896

エスカル横浜 TEL : (045) 681-2141

エスカル神戸 TEL : (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会(045)319-4506

ホームページ <https://www.jswa.or.jp>

# 海事六法 2024年版

2024年1月末日現在の海事関係法令および条約195件を、海運／船舶／安全／船員／職員・審判／海上交通／海洋汚染／保安・その他／条約の9項目に分類して掲載。「海技試験」に必要な法令をすべて収録するとともに、口述試験場への持ち込みが認められている。また、海事代理士試験の規程法令科目にも対応した収録内容とし、実務にも役立つように配慮。

国土交通省海事局 監修 A5判 2232頁 定価 5,280円(税込)



## 環境と港湾

CNPによる日本港湾  
の復権にむけて

なぜ港湾として環境問題に取り組まなければならないのか、CNP（カーボンニュートラルポート）とは、そして、国土交通省による CNP 認証（コンテナターミナル）制度について、その制度設計にも深く関わった著者がわかりやすく解説する。日本の港湾復権の鍵となる、CNP への取り組みが理解できる。

森 隆行 著 A5判 168頁 定価 2,750円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4  
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

## 海文堂出版

<https://www.kaibundo.jp/>  
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

### 会員各位 2024年度通常総会 開催通知

1. 日時・場所 2024年6月15日 14時～ 日本教育会館704号室  
本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者の密を避けるよう、できるだけ同封されたハガキで「委任」または「書面表決」行って下さい。  
なお、今回は総会後の懇親会は開催いたしません。
2. 議 題 第1号議案 2023年度事業報告(案)  
第2号議案 2023年度決算(案)  
第3号議案 役員の選任及び解任  
報告事項 2024年度事業計画(案)及び予算(案)

通常総会が成立するには、会員の半数以上の出席が必要となっています。

総会に出席できなくても、会報に同封されたハガキにて「委任」または「書面表決」を行ってください。  
ファックスや電子メール・ホームページ・携帯メールで回答されても有効です。

携帯メールの場合は、右のQRコードをご利用くだされば、簡単に送信できます。

